

神話の夢舞台 **出雲**
IZUMO

出雲市観光基本計画

西部日本海域の観光拠点都市をめざして



平成21年(2009)1月

西部日本海域の観光拠点都市をめざして

近年の社会・生活環境は、少子高齢化、高度情報化、国際化、環境への関心度の高まりなどその変化は著しく、それにともない個人の価値観やライフスタイルも多様化し、観光においても、個人・小グループ旅行の増加やテーマ型、体験型、長期滞在型などの旅行スタイルへの注目の高まり、シニア層の旅行市場の活性化とジュニア層の低迷など、観光をとりまく環境も大きく変化しています。

また、少子高齢化が進むなか、観光による交流人口の増大による経済活性化の期待が高まっており、観光による地域活性化への取り組みが全国的に活発化しています。



このように観光は、今後大きな成長が期待される産業であり、他の産業への波及効果も大きく、地域内での雇用の創出が見込まれることなどから、地域経済を牽引していく21世紀のリーディング産業として注目されています。また、経済的側面のみならず、地域に対する住民の誇りの醸成といった文化的な効果も見込まれます。

観光は、地域がより魅力的に発展していくために有効な方策であるとともに、様々な産業をつなげ地域をまとめあげる役割を有していると捉えられます。こうした中で、本市は西部日本海域の中心に位置し、全国に名をはせる出雲大社をはじめ多くの観光資源に恵まれており、広域観光の推進拠点としての役割が期待されています。

このような背景のもと、出雲市では、「21世紀出雲神話観光大国の創造」を基本方針に、「21世紀出雲神話観光大国の建設促進条例」及び「21世紀出雲『神在月』文化振興条例」を制定し、行政・市民・観光事業者等の協働のもと、多様な施策を展開しています。

本計画は、それらをさらに一歩進めるべく、「21世紀出雲神話観光大国」の実現に向けて、今後どのように出雲市観光を進めていくかという指針及びシナリオとして策定したものです。

今後、市民の皆様、企業の皆様、行政が一体となり、それぞれの役割に応じて、協働しながら計画を推進し、観光振興による地域の活性化に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

最後に「出雲市観光基本計画」の策定作業にあたり、熱心にご審議・ご協力をいただきました出雲市観光戦略会議の小口孝司会長、沢登次彦副会長をはじめ委員の皆様はもとより、貴重なご意見をいただきました市民の皆様に対しまして、心から敬意を表し、深く感謝を申しあげる次第であります。

2009年 1月

出雲市長

西尾理弘

序 章：観光基本計画策定の趣旨	1
1. 出雲市が観光に取り組む意義.....	2
2. 計画期間.....	3
3. 計画の構成.....	3
第1章：出雲市観光の現状と課題	4
1. 観光資源特性.....	5
2. 観光動向.....	11
3. 出雲市観光の経済波及効果.....	21
4. 出雲市観光の課題.....	27
第2章：計画の基本方針	29
1. 計画の目標・目指すべき観光地像.....	30
2. 出雲市観光のテーマ.....	31
3. ターゲットと整備イメージの設定.....	32
4. 出雲市観光の基本方針.....	33
第3章：計画推進施策	34
1. 施策の体系.....	35
2. 観光推進施策.....	38
第4章：重点施策（リーディングプロジェクト）	81
1. 重点施策設定の基本的な考え方.....	82
2. 重点施策.....	83
第5章：エリア別施策	86
第6章：計画の進行管理	89
1. 施策推進体制.....	90
2. 施策推進スケジュール.....	92

序 章

観光基本計画策定の趣旨

1. 出雲市が観光振興に取り組む意義

(1) 出雲市の経済的な自立のために

観光における宿泊、飲食、移動、買物、施設利用などにより消費が生まれます。これらの消費は単に宿泊施設、観光施設、交通事業者などの限定された業種にとどまらず、食材を提供する生産者、商品を加工する加工業者、一般商店などの多くの業種に間接的な波及効果を与えます。国土交通省が実施した「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究Ⅶ」によると、2006年の旅行消費額は、23.5兆円でその生産波及効果は52.9兆円と推計されています。この生産波及効果は、国内生産額949.1兆円の5.6%にあたります。

このように、観光産業は、地域外の人たちに対し、製品・サービスを提供し対価を得る産業であり、交流人口の拡大により地域内の経済活性化を加速させ、定住人口の増加の厳しい中で、今後、重要な役割を担うものといえます。また、他業種と横断的に組合わさる複合産業であり、雇用の創出、住民所得の増大など地域への経済波及効果は大きいものがあります。

(2) 全市民をあげた魅力ある地域づくりのために

出雲市には、出雲大社をはじめとする歴史・文化資源、海、湖、山等の自然資源とそこでのレクリエーション資源、郷土料理や年中行事等生活文化的資源など多様な地域資源があります。このような多様で地域独自の資源を活用することが、地域外からの誘客につながります。観光による地域づくりを行うには、地域が有する資源を掘り起こし、その魅力を磨きあげることから始まり、地域の資源を見直す格好の機会になります。さらに、そうした資源を持続的に活用していくことにより、地域資源を保存・継承していくことも可能にします。

また、地域住民にとって普段気がつかない地域資源も、地域外から訪れる観光客が大きな関心を寄せ、私達は、その価値を再認識せられるケースもしばしばあります。また、住民自らが地域の魅力を発見し、観光客に提供し共感を得ることもあります。

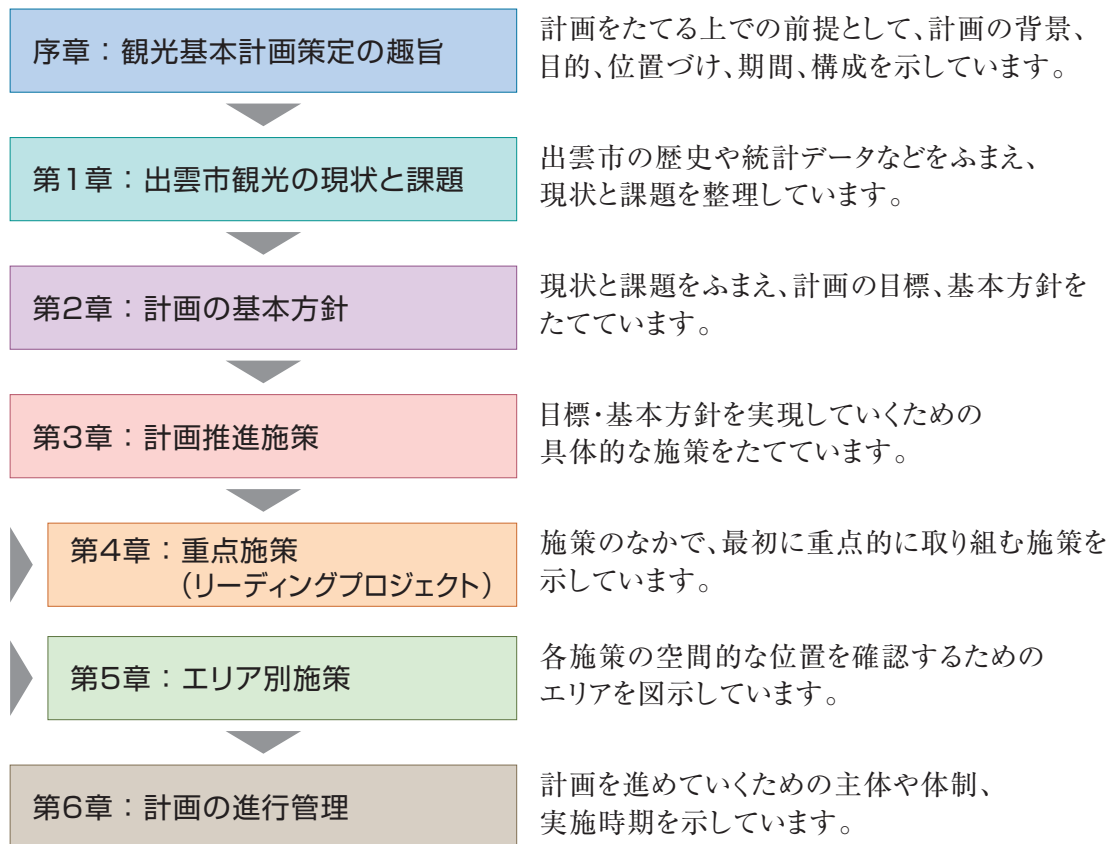
観光は、観光客との交流により、住民の地域への意識高揚やイメージの向上、さらには、地域に対する愛着と誇りの醸成につながります。

2. 計画期間

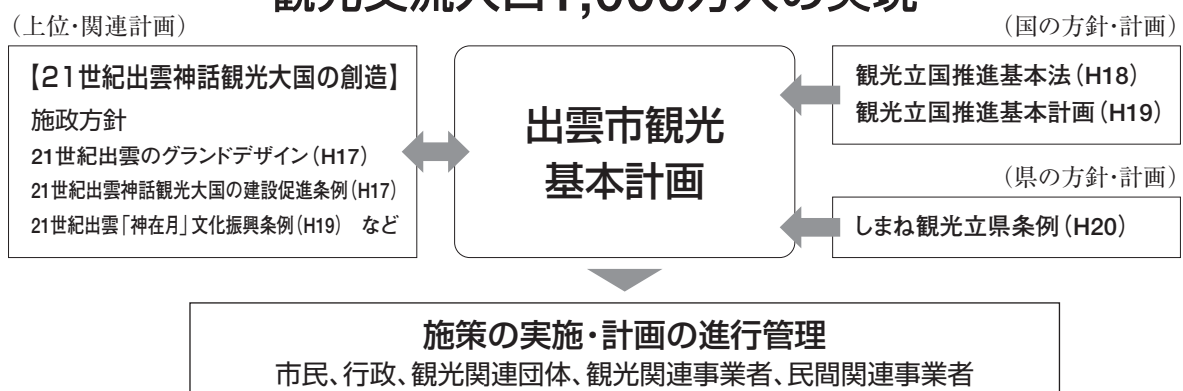
本基本計画の期間は、平成21年度（2009）から平成30年度（2018）までの10年間とします。なお、計画策定後は、進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会経済情勢の変化などにも対応しながら、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととします。

3. 計画の構成

本基本計画の構成は、以下のとおりです。



観光交流人口1,000万人の実現



第1章

出雲市観光の現状と課題

1. 観光資源特性

(1) 出雲市の観光資源の特徴

本市は、古くから「神話のふるさと」として知られ、奈良時代にまとめられた「古事記」や「日本書紀」の神話の内3分の1が出雲地方を舞台としているほか、「出雲国風土記」にも特色ある神話が掲載されており、市内にはこれらのゆかりの地が数多く残されています。

旧暦10月は、一般には、「神無月^{かなづき}」と呼ばれていますが、出雲地方では神々が全国からお集まりになることから「神在月^{かみありづき}」と呼んでいます。

日本中の神様が集う神々のふるさと、そして縁結びの神様として親しまれる出雲大社に象徴される「出雲」の名は全国的な知名度を誇っています。また、西谷墳墓群、鰐淵寺、日御碕神社、須佐神社、長浜神社、一畑薬師、佐香神社など古代から中世にわたる歴史・文化資源は、日本のルーツを感じることできる第一級の資源です。

さらには、日本海、宍道湖、神西湖、斐伊川、神戸川、緑豊かな山々、肥沃な出雲平野などの自然資源にも恵まれています。

また、伝統ある「出雲そば」をはじめとして、豊かな自然に育まれた新鮮な食材も大きな魅力のひとつといえます。

このような、歴史・文化、自然を背景として、豊富な伝統芸能、伝統行事が継承されているほか、現在では、科学、芸術文化、スポーツ分野においても全国をリードする取組みが展開されています。

(2) 出雲市の観光資源の分布

出雲地域

JR出雲市駅周辺に宿泊施設や飲食施設が集積する滞在拠点であり、中心部には商業施設も集積しています。中心部を流れる高瀬川は江戸期に拓かれた水路であり、江戸時代中期には、水運として活発に利用され、商都出雲の発展の礎を築きました。今では沿線には親水公園や老舗の染物店などがあり、中心市街地の中でも落ち着いた水辺空間となっています。

出雲地域南部の立久恵峡は自然豊かな景観から山陰の耶馬溪と称され、温泉や遊歩道など四季おりおりに楽しめます。また、平成18年の豪雨災害で被災したわかあゆの里は、キャンプ場等の再整備が計画されています。

さらに、出雲地域には、西谷墳墓群、今市大念寺古墳、上塩冶築山古墳など多くの

古代遺跡が確認され、今なお新しい発見が続いています。このような、古代出雲の歴史を解明し、後世に伝えていく施設として、西谷墳墓群の隣接地において「出雲弥生の森博物館」の整備を進めています。「古代出雲歴史博物館」や専門性の高い「荒神谷博物館」、「加茂岩倉遺跡ガイドンス」などと連携し、出雲の古代遺跡をテーマとした新たな観光ルートの創出をめざしています。

平田地域

江戸期から明治期にかけて雲州木綿の集積地として栄えた地域で、特に「木綿街道」と呼ばれる平田船川沿いの区域は、切妻入りの土蔵造りの民家が当時の面影を伝えています。そのほか、一畑薬師、鰐淵寺、佐香神社、康国寺などの神社仏閣、江戸期の本陣宿を活用した平田本陣記念館、「出雲国風土記」で黄泉の穴とされる猪目洞窟など歴史・文化資源が集積しています。

また、日本海や宍道湖の豊かな自然にも恵まれており、そうした自然環境の中に湖遊館、宍道湖自然館ゴビウス、宍道湖グリーンパークなどのレクリエーション施設も整備されています。さらに、日本海側では新たな観光資源となり得る全国最大規模の風力発電施設の整備が進められており、十六島では風車公園などの整備も計画しています。

佐田地域

須佐之男命にゆかりの深い地域であり、出雲国風土記にも登場する須佐神社は、須佐之男命をまつる神社として多くの伝説が残されています。特に近年パワースポット*として紹介されたことにより、多くの人が訪れています。周辺には、八雲風穴や須佐温泉ゆかり館、スサノオ館などの観光資源が集積しています。

また、森林資源が豊富な地域であり、バンガローやキャンプ場などを備えた目田森林公園や森と水辺に親しめる伊秩やすらぎの森など豊かな自然の中で様々な体験が可能な地域となっています。さらに、この地域には、日本古来の製鉄方法である「たたら」の遺跡も多く残されており、国史跡の指定を受けている朝日たたら跡は、良好な保存状態が保たれています。

* パワースポット：エネルギースポット、気場。この地球上にあるすべての生命や物質の存在及び活動の源となるエネルギーが集中しているとされる場所

多伎地域

本市の西の玄関口にあたり、国道9号沿いの高台にたち、北欧風の外観を持つ道の駅「キララ多伎」はドライブをはじめ、海水浴、海釣りなどの絶好のポイントになっており、広々とした日本海の眺望や美しい夕日やいさり火などの景観も優れています。

また、マリントラソ出雲、キララコテージなどが海浜リゾート的なエリアを形成しているほか、多伎いちじく温泉、華蔵温泉、小田温泉などもあり、癒しと健康づくりのゾーンともなっています。多伎特産のいちじくは、ワインやジャムなどの多くの加工品が開発され、地域のブランドとなっています。そうした中で、多伎いちじくの生産振興の拠点と新たな観光の拠点としての「いちじくのと多伎」の整備を進めています。

さらに近世たたら製鉄の遺構も数多く残されており、田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、国史跡の指定を受け、調査及び整備が進められています。

湖陵地域

日本海の海岸線と神西湖が中心的な資源であり、特に、多伎地域から湖陵地域を通じて出雲、大社地域を結ぶ「くにびき海岸道路」は、壮大な国引き神話の舞台となった大社湾を望むルートです。差海地区からキララ多伎にいたる海岸沿いのルートは、日本海の夕日や白い砂浜など美しい景観に恵まれています。周辺には、日本海の潮風とミネラル豊富な砂丘地で西浜いもが栽培され、観光農園や直売所などがあります。

また、神西湖は、葦やガマにかこまれた自然豊かな汽水湖で、宍道湖に次ぐしじみの産地でもあります。湖畔には湖陵温泉がわき、国民宿舎国引荘やクアハウス湖陵があります。

大社地域

出雲大社の門前町として発展してきた地域であり、出雲大社を中心に神話にちなんだ観光資源が集積するのをはじめ、多くの歴史・文化資源があります。日本海側には、世界の歴史的灯台百選の一つである日御碕灯台、朱塗りの日御碕神社、古い港町の風情を残す鷺浦など多くの観光資源があります。この地域は大山隠岐国立公園の区域であり、青い日本海と絶景のリアス式海岸、美しい夕日など自然景観にも恵まれています。

さらに、出雲大社の周辺には、島根ワイナリーや古代出雲歴史博物館などの観光拠点があるほか、大社門前町再生・整備事業として、神門通り広場整備、温泉の活用、歌舞伎の始祖「出雲阿国」ゆかりの地として全国への情報発信の拠点となる「出雲阿国座（仮称）」の創設など、出雲の歴史・文化のシンボル空間としての整備を進めています。

■観光資源一覧

地域名	名称	自然・景観	遺跡・史跡	神社仏閣	歴史的建造物	近現代の建造物	町並み	庭園	公園・広場	遊歩道・並木	博物館・美術館	植物園	伝統工芸	地域産業	温泉	展望台	キャンプ場等	海水浴場	釣り	その他レク施設	交通乗り物	その他
出雲	長浜神社		●	●	●			●														
	光明寺(馬木不動尊)			●																		
	法王寺			●																		
	西谷墳墓群	●	●													●						
	今市大念寺古墳		●																			
	古志・神門古墳群(放し山・妙蓮寺山・宝塚・小坂)		●																			
	上塩冶(築山古墳・地藏山古墳)		●																			
	鷹が巣城跡	●	●													●						
	大寺薬師の仏像(仏像収蔵庫)										●											
	立久恵峡	●								●					●							
	高瀬川	●					●			●												
	長浜海岸	●																				
	築地松	●																				
	勝定寺庭園			●				●														
	しまね花の郷								●			●										
	島根県立浜山公園								●											●		
	一の谷公園	●							●													
	三谷神社獅子舞																					●
	見々久神楽																					●
	出雲全日本大学選抜駅伝競走																					●
	神在月出雲全国そばまつり																					●
	出雲神話まつり																					●
	出雲ドームくにびきマラソン大会																					●
	出雲総合芸術文化祭																					●
	高橋鍛冶製品												●									
	筒描藍染												●									
	八雲塗												●									
	張子虎												●									
	萬祥山焼												●									
	一刀彫												●									
	出雲今市土人形												●									
	ケヤキ挽物細工												●									
	出雲獅子頭												●									
	出雲文化伝承館				●			●			●											
	出雲民芸館										●											
	出雲科学館										●											
	出雲ドーム(健康公園)					●														●		
	出雲国際交流プラザ																			●		
	出雲ゆうプラザ														●					●		
	出雲市民会館																					●
	ビッグハート出雲																					●
	平成温泉														●							
	北山温泉														●							
平田	鰐淵寺	●		●	●																	
	一畑薬師			●	●			●														
	木綿街道				●									●								
	大寺・国富古墳群		●																			

地域名	名称	自然・景観	遺跡・史跡	神社仏閣	歴史的建造物	近現代の建造物	町並み	庭園	公園・広場	遊歩道・並木	博物館・美術館	植物園	伝統工芸	地域産業	温泉	展望台	キャンプ場等	海水浴場	釣り	その他レク施設	交通・乗り物	その他
平田	猪日洞窟遺物包含層		●																			
	康国寺庭園			●	●			●														
	愛宕山公園								●													
	一畑薬師「二才児まつり・四才児お礼まいり」																					●
	唐川新茶まつり																					●
	平田七夕仮装船行列																					●
	崎田神社青獅子舞																					●
	宇賀神社の獅子舞																					●
	松尾神社秋季例祭・どぶろく祭り																					●
	一畑薬師マラソン																					●
	武蔵坊弁慶まつり																					●
	鰯淵寺紅葉まつり																					●
	多久神社のささら舞																					●
	八雲塗												●									
	平田本陣記念館				●						●											
	一式飾展示館										●											
	宍道湖自然館ゴビウス										●											
	湖遊館																			●		
	宍道湖グリーンパーク								●											●		
	平田文化館																					●
	ゆらり・ぶらり													●	●							
佐田	須佐神社			●	●																	
	田儀櫻井家たたら製鉄遺跡「朝日たたら跡」		●																			
	八雲風穴	●							●													
	横見埋没林	●																				
	伊秩やすらぎの森・遊好の里	●							●	●										●		
	出雲市目田森林公園																●			●		
	須佐神社念仏踊り																					●
	スサノオ館										●											
	雲海の館													●								
	一縁荘(田舎ツーリズム)																					●
	出雲歌舞伎むらくも座																					●
	スサノオホール																					●
	出雲すさのおの郷ゆかり館(出雲須佐温泉)														●							
	須佐神社節分祭茅の輪(ちのわ)神事																					●
	スサノオごっこいまつり																					●
多伎	田儀櫻井家たたら製鉄遺跡「宮本鍛冶山内遺跡」		●																			
	田儀櫻井家たたら製鉄遺跡「越堂たたら跡」		●																			
	田儀櫻井家たたら製鉄遺跡「聖谷たたら跡」		●																			
	見晴らしの丘公園・キララコテージ								●								●			●		
	手引ヶ丘公園(風の子楽習館)								●											●		
	手引ヶ浦台公園								●													
	スイムランIN多伎																					●
	道の駅キララ多伎													●								
	マリントラソ出雲																			●		
	多伎いちじく温泉														●							
	華蔵温泉														●							

地域名	名称	自然・景観	遺跡・史跡	神社仏閣	歴史的建造物	近現代の建造物	町並み	庭園	公園・広場	遊歩道・並木	博物館・美術館	植物園	伝統工芸	地域産業	温泉	展望台	キャンプ場等	海水浴場	釣り	その他レク施設	交通・乗り物	その他
多 伎	小田温泉														●							
	キララ多伎まつり																					●
	花神事																					●
湖 陵	湖陵くにびき海岸	●																●				
	観光いも堀り農園																			●		
	クアハウス湖陵														●					●		
	国民宿舎国引荘																					●
	湖陵どんとこい祭																					●
	佐志武神社大祭神事華																					●
大 社	出雲大社			●	●		●															
	日御碕神社			●	●																	
	因佐神社			●																		
	上の宮			●																		
	屏風岩		●																			
	出雲阿国の墓																					●
	奉納山公園・阿国の塔								●							●						
	連歌庵																					●
	島根半島海中公園	●							●													
	出雲日御碕灯台	●			●											●						
	稲佐浜	●																●				
	筆投島	●																				
	笹子島	●																				
	つぶて岩	●																				
	経島のウミネコ繁殖地	●																				
	道の駅大社ご縁広場・吉兆館								●													
	出雲市うさぎ森林公園								●								●					
	島根県立古代出雲歴史博物館										●											
	手銭記念館				●		●				●											
	旧JR大社駅				●																	
	吉兆さんと番内																					●
	出雲大社福神祭																					●
	出雲大社節分祭																					●
	出雲大社大祭礼																					●
	出雲大社神迎祭																					●
	出雲大社神在祭																					●
	出雲大社奉納菊花展																					●
	出雲大社献穀祭・古伝新嘗祭																					●
	ご縁祭り																					●
	日御碕神社め川神事																					●
	大土地神楽																					●
	福こづち												●									
	祝風												●									
	福神面												●									
	木地人形												●									
	組子細工												●									
	じょうき												●									
	島根ワイナリー													●								
	大社文化プレイスうらら館																					●

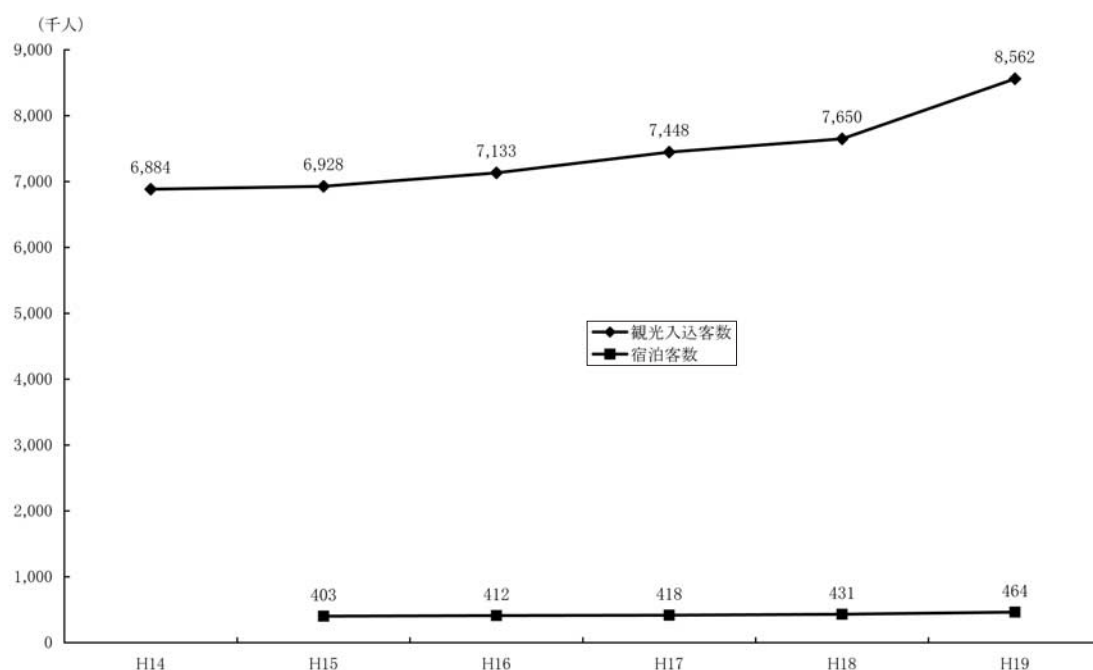
2. 観光動向

(1) 観光入込客数の推移

1) 出雲市の観光入込客数

本市の観光入込客数は、近年増加傾向にあります。平成19年には、古代出雲歴史博物館が開館したこともあり、大幅に増加し850万人を突破しました。

一方、宿泊客数は、微増傾向にあるものの、全体に対する宿泊客の割合は1割に満たない数字となっています。



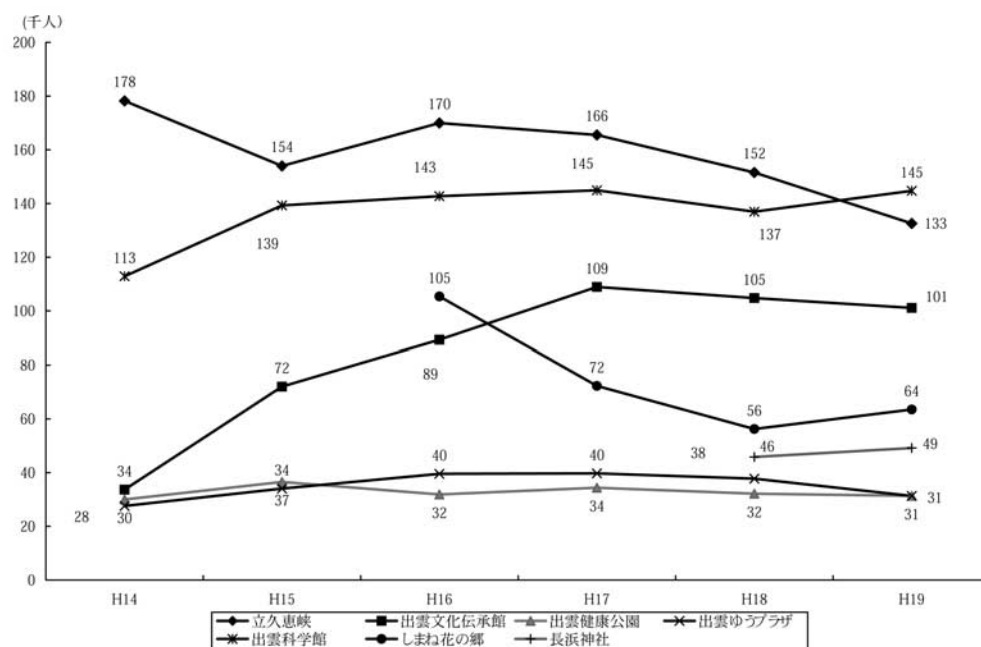
* 平成16年以前は合併前の2市4町の合計数値。

* 観光入込客数は、調査対象になっている市内各観光資源・施設の入込客数の積み上げで算出されている。
(1人が2つの施設を利用すると「2人」とカウントされる。)

2) 主要観光施設の観光入込客数

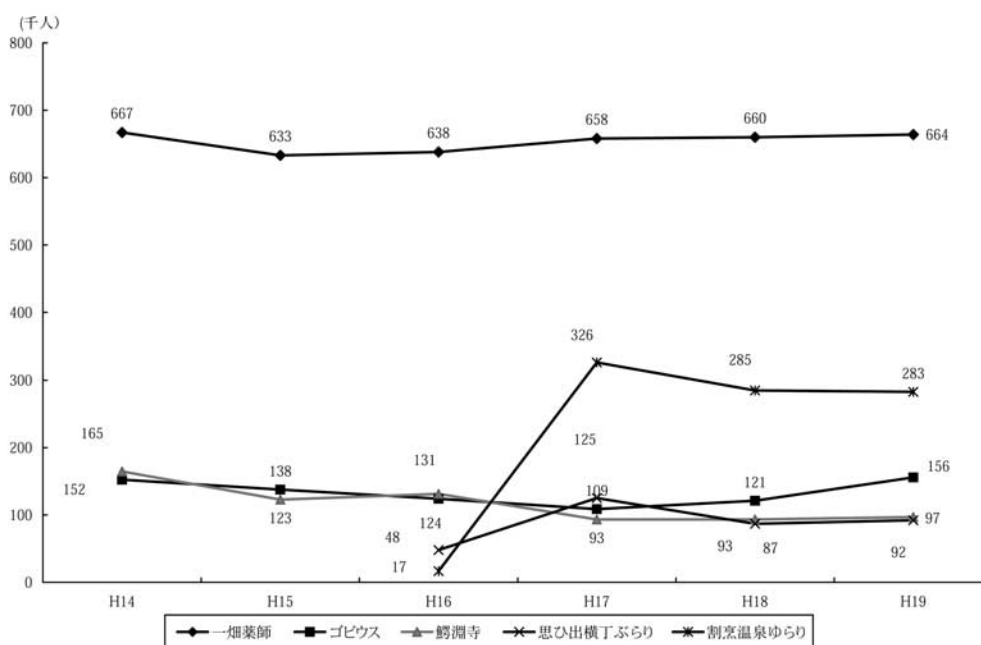
①出雲地域

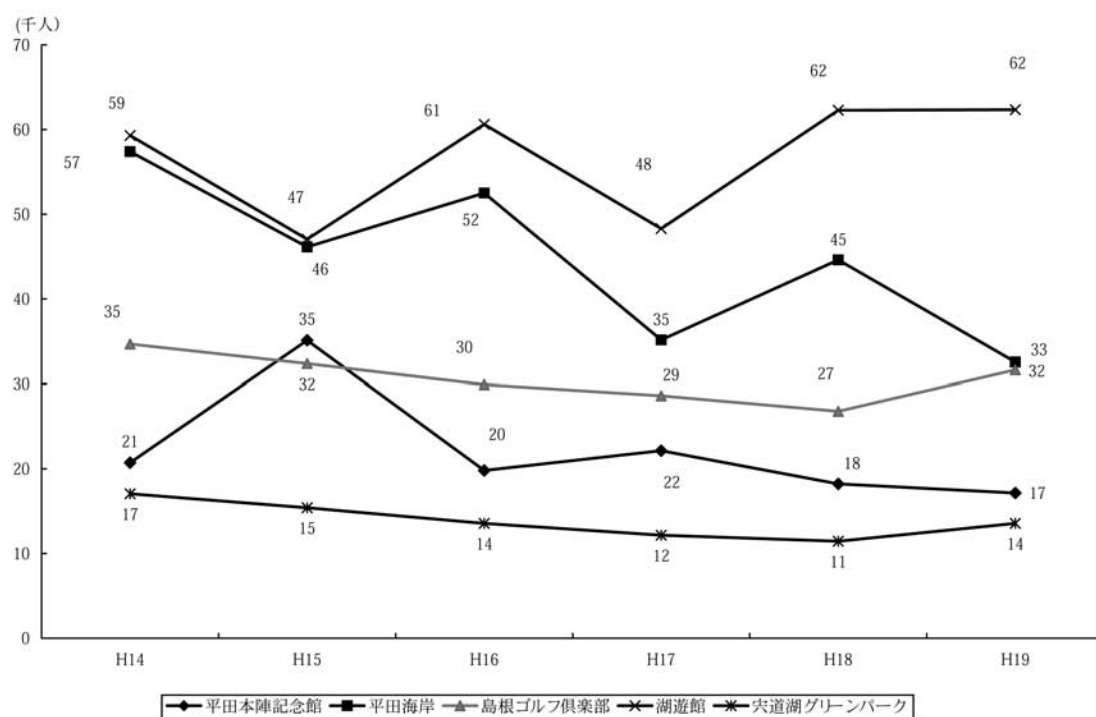
全体的な観光入込客数は、平成16年以降横ばいの傾向となっています。出雲文化伝承館は平成17年までは順調に増加していたものの、ここ数年は横ばいとなっています。この地域を代表する観光資源の1つである立久恵峡は豪雨災害等の影響により近年減少の傾向にあります。



②平田地域

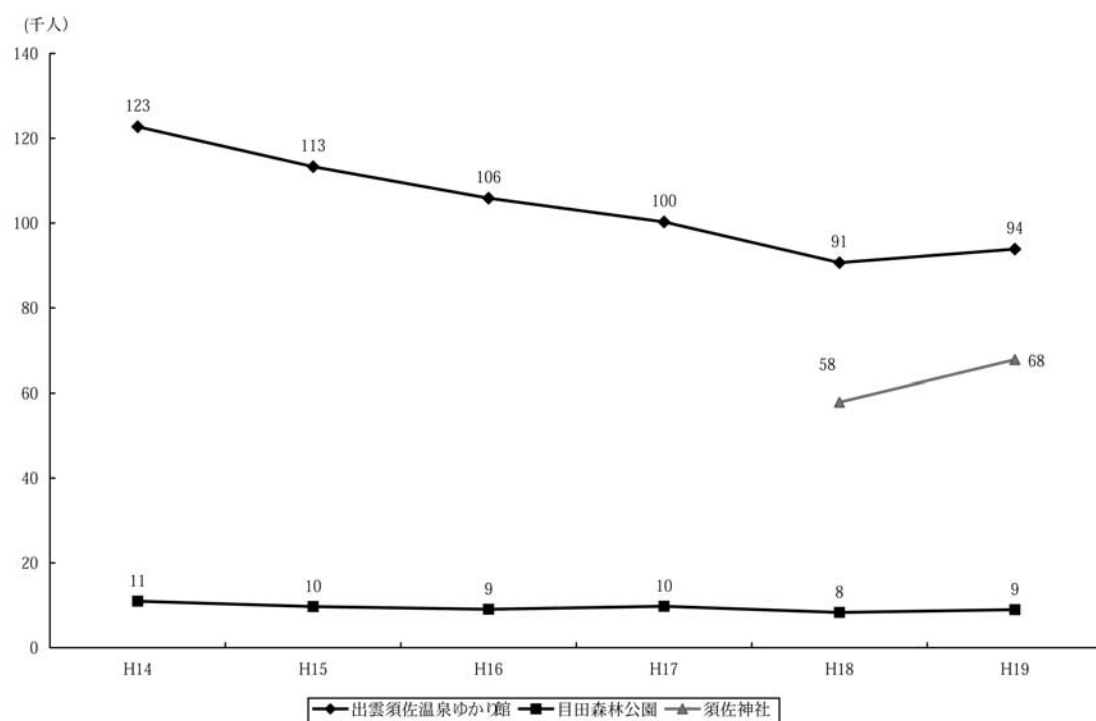
平成16年に割烹温泉ゆらり、思い出横町ぶらりが整備されたこともあり、全体的な観光入込客数は、増加の傾向となっています。それ以外の施設はほぼ横ばいの傾向にあります。





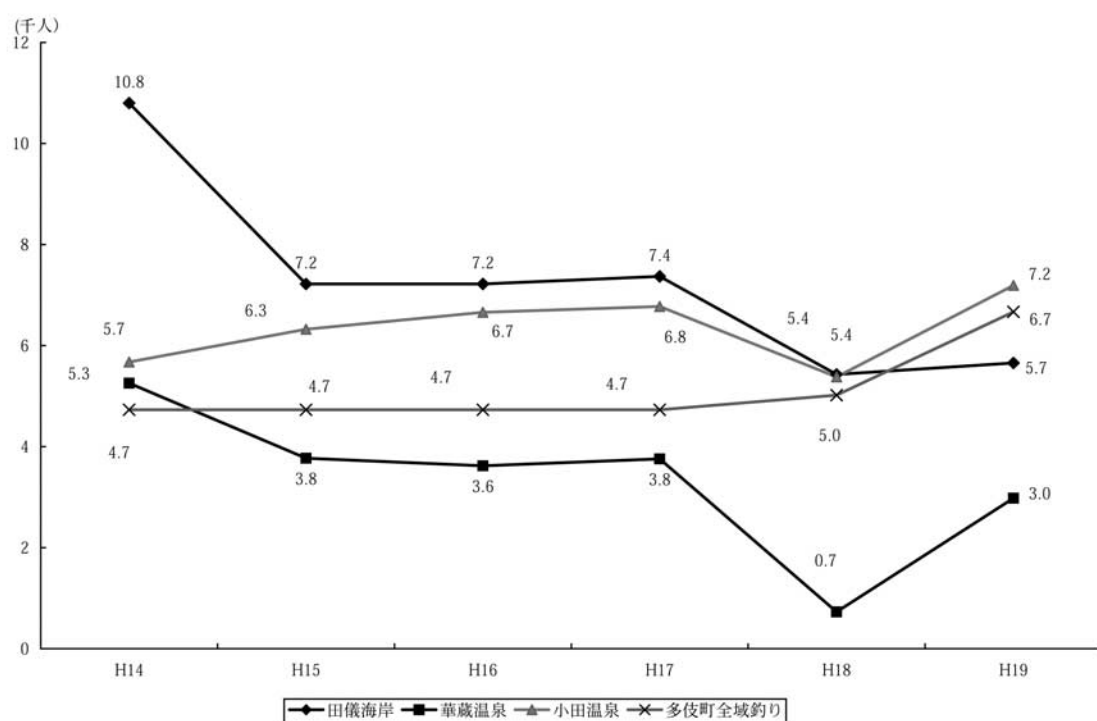
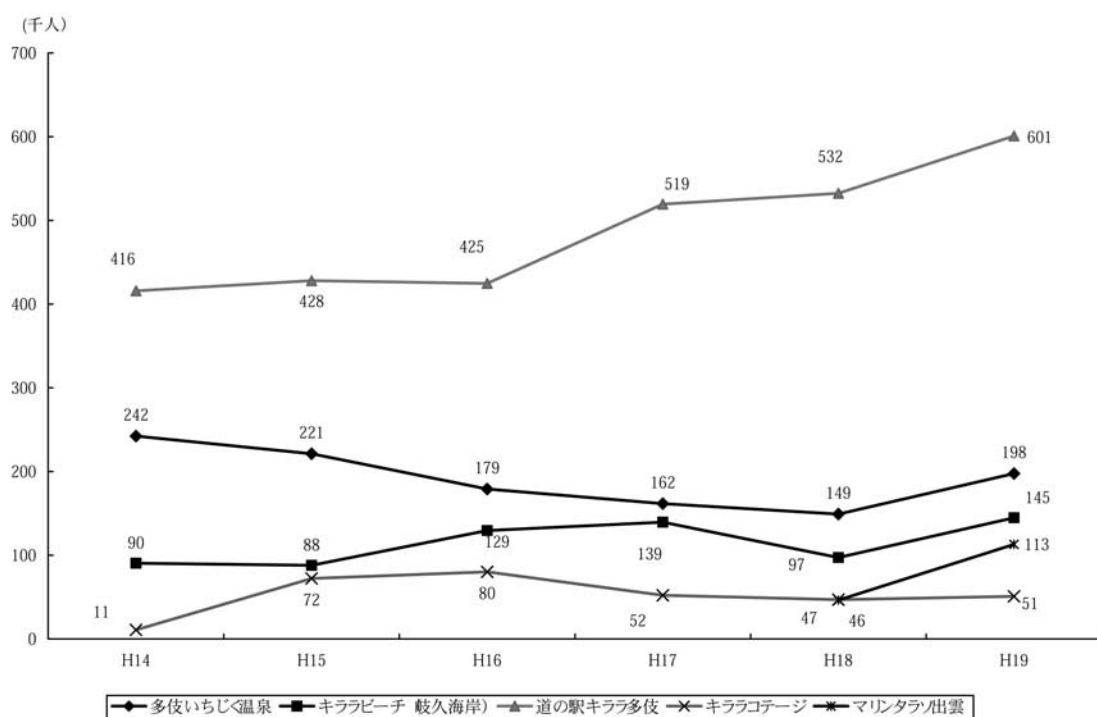
③佐田地域

出雲須佐温泉ゆかり館は、平成19年は若干増加したものの近年減少の傾向となっています。平成18年から調査対象となった須佐神社は、平成19年において若干増加しています。



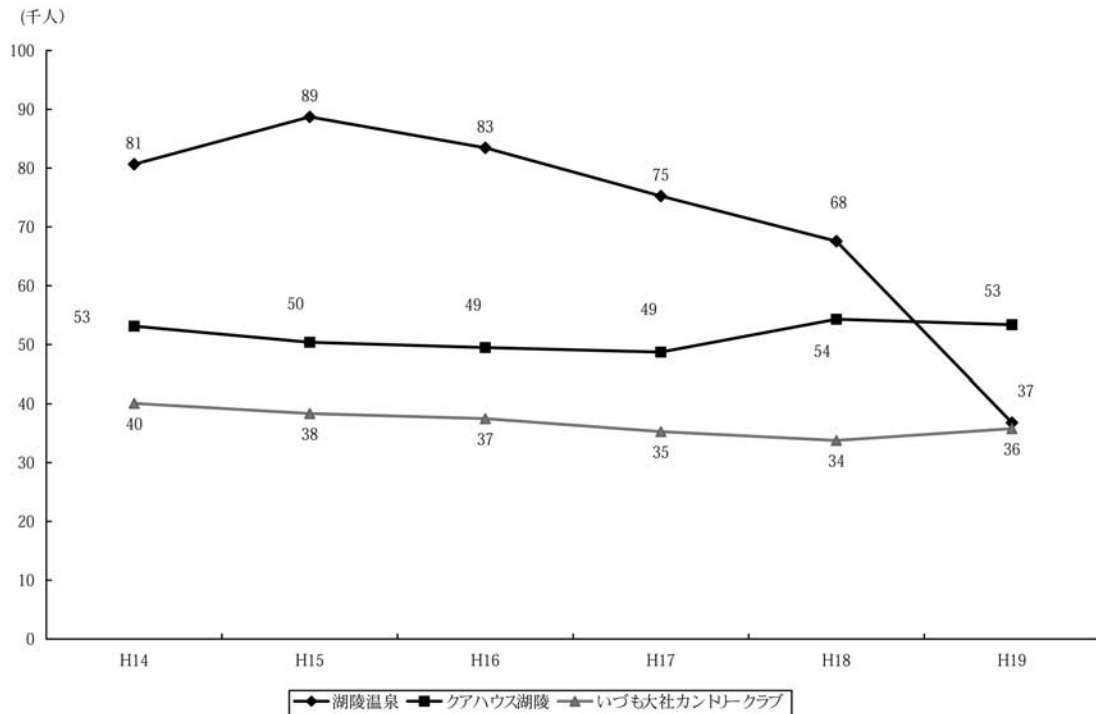
④多伎地域

全体的な観光入込客数は、増加傾向にあります。特に、道の駅キララ多伎は順調な増加を示しています。また、平成18年オープンのマリントラソ出雲も増加しており、集客力アップに寄与しています。



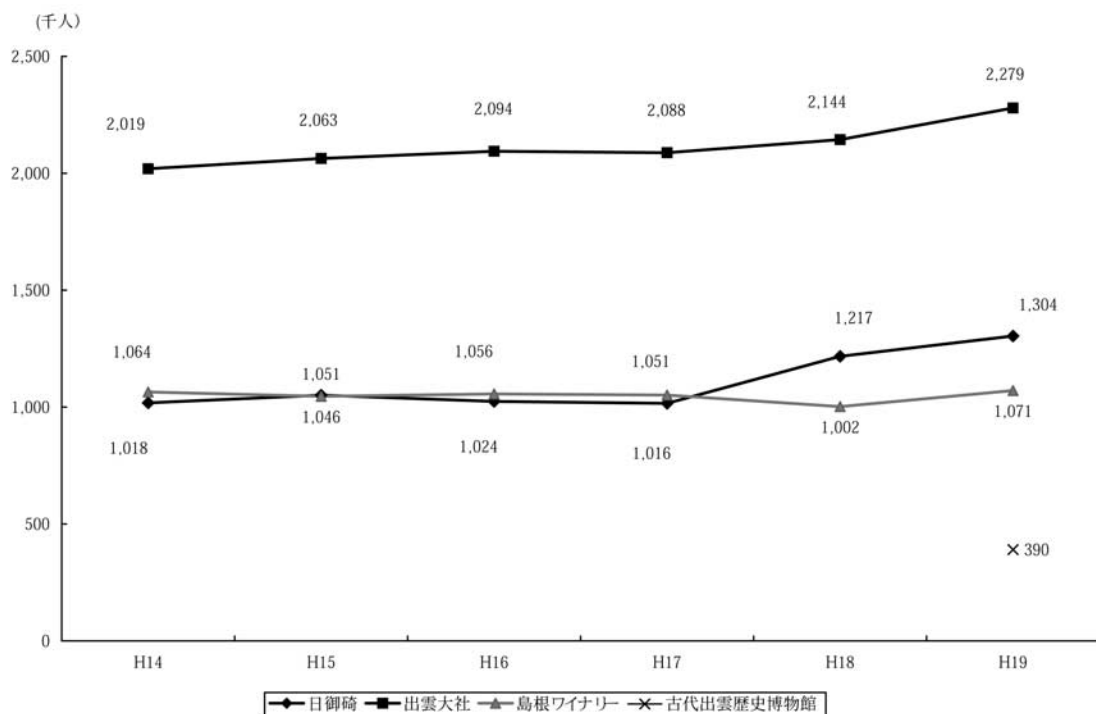
⑤湖陵地域

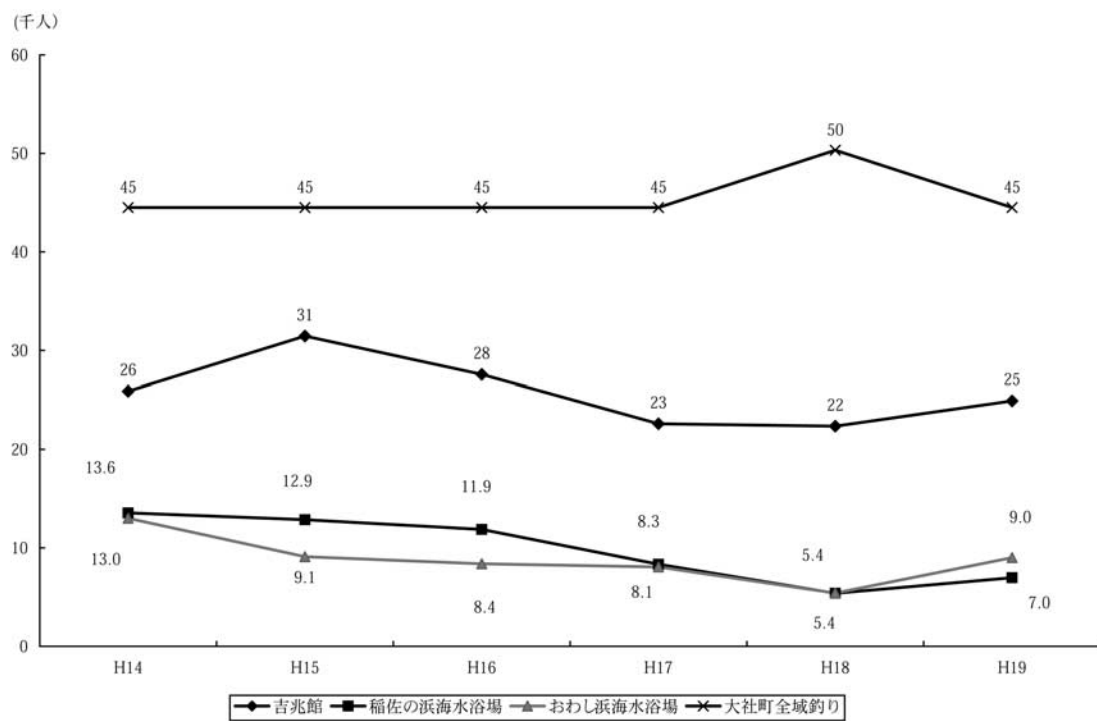
全体的な観光入込客数は、減少傾向にあります。湖陵温泉は、湖陵荘が平成18年8月末で閉鎖したことにより、2施設が1施設になり、減少しています。



⑥大社地域

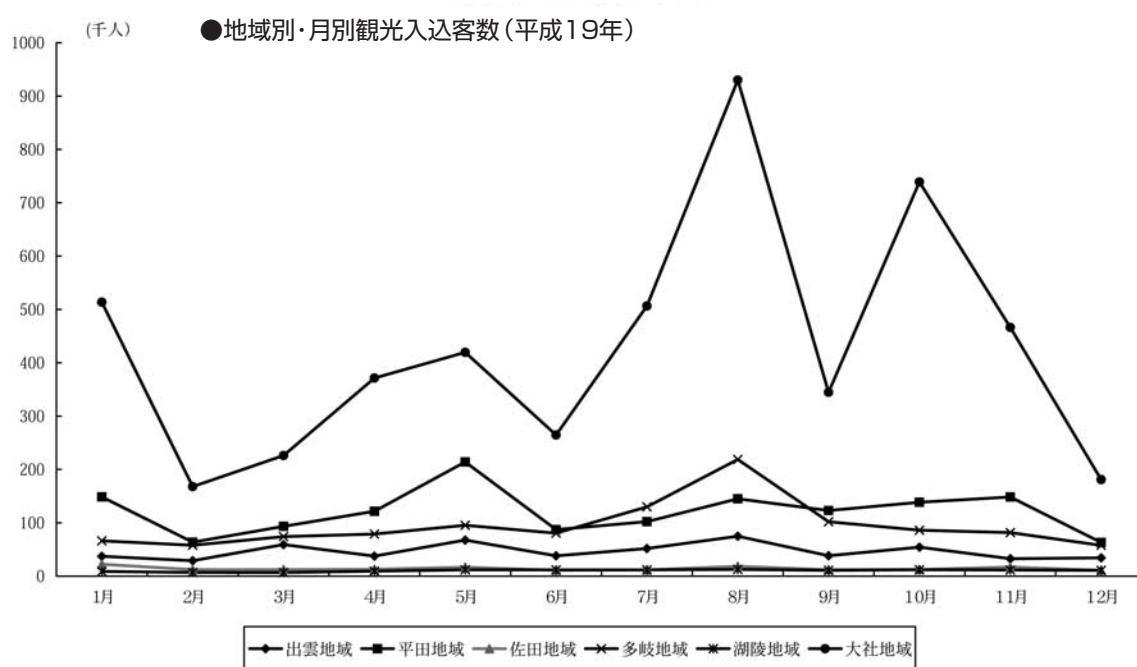
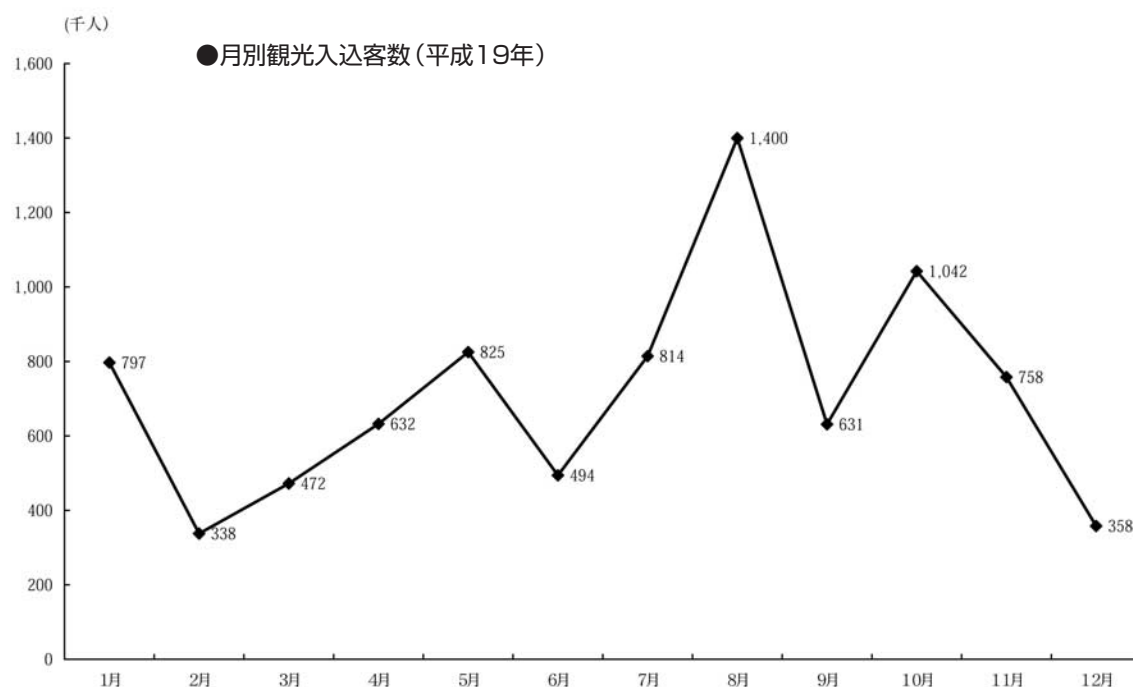
本市において最も集客力のある地域となっています。出雲大社、島根ワイナリー、日御碕がその主要な観光資源です。いずれも近年増加の傾向にあります。また、古代出雲歴史博物館が平成19年にオープンし、さらに集客力が向上しています。



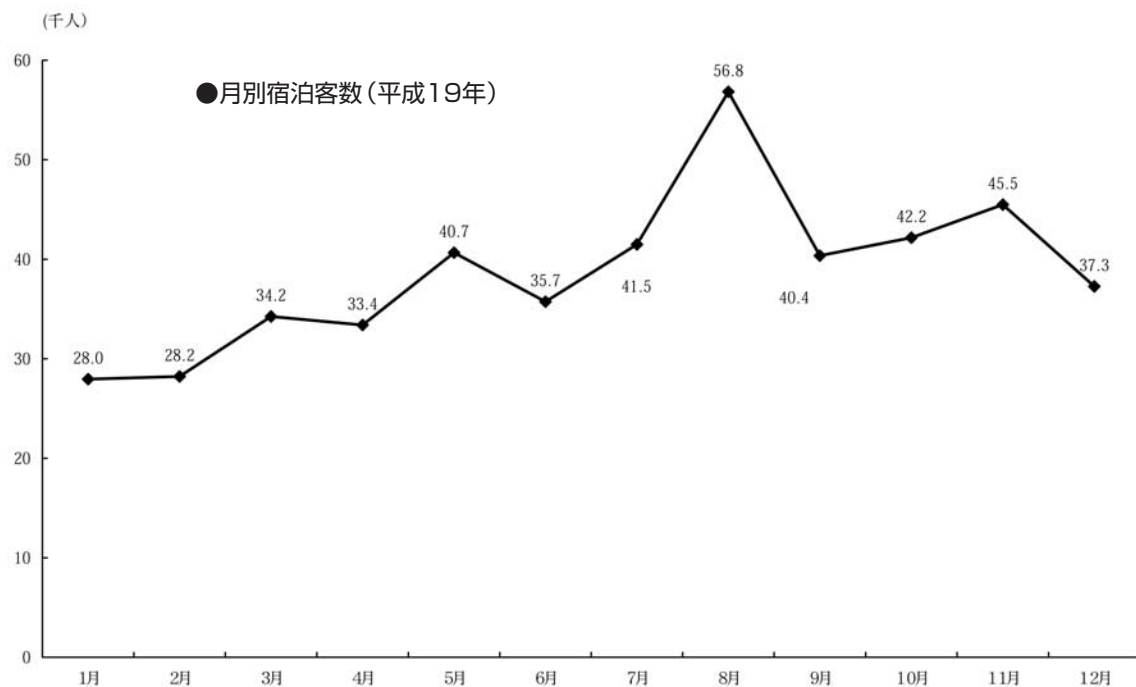


(2) 月別の観光入り込み客数

月別の観光入込客数では、8月が最も多く、初詣等による1月、気候の良い5月と10月が多い傾向にあります。地域別にみると、特に大社地域において、この傾向が強くなっています。



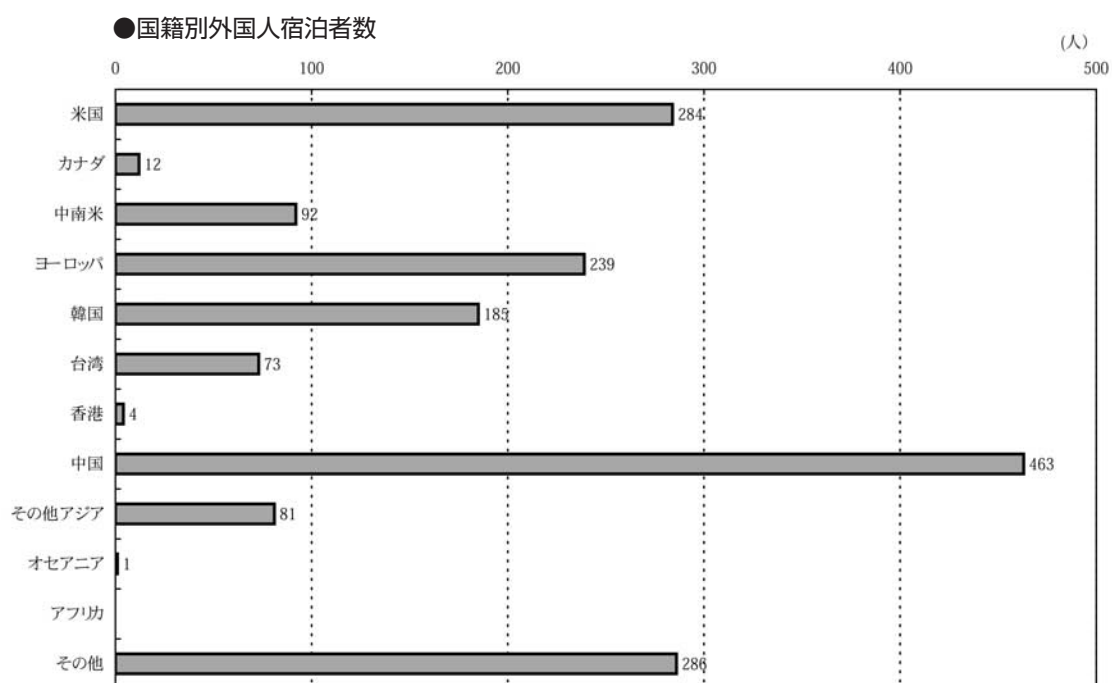
月別の宿泊者数も、観光入込客数同様に8月がピークとなっています。



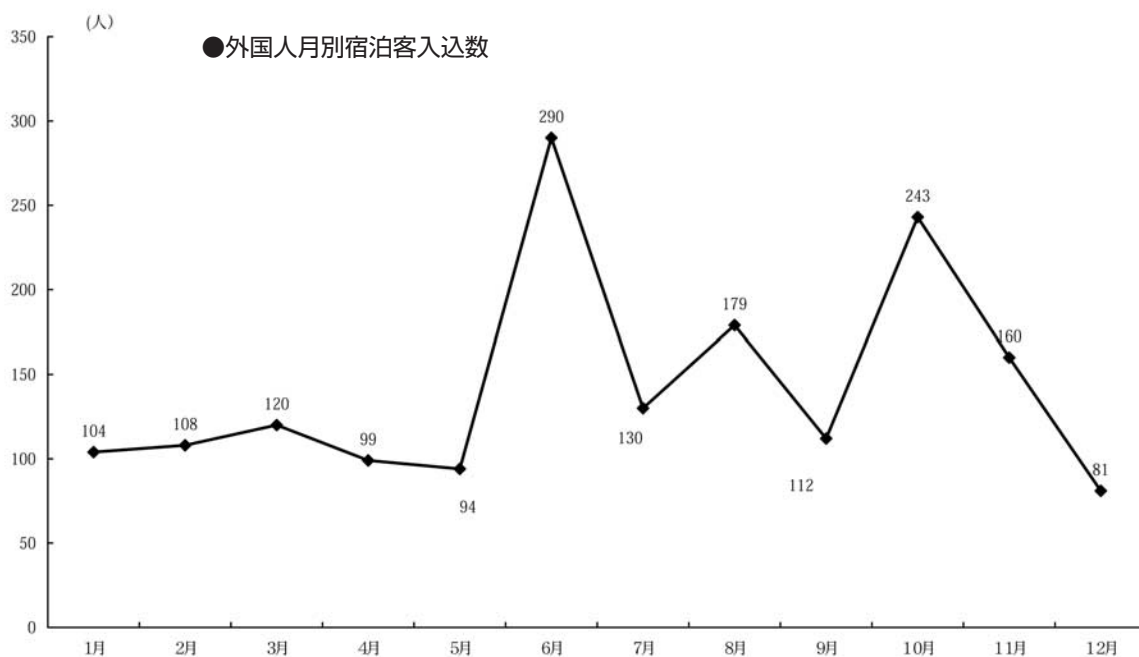
(3) 外国人宿泊観光客数

平成19年の外国人宿泊観光客数は、1,740人と島根県全体（32,710人）の1割に満たない数字となっています。島根県内では松江市が23,323人と最も多くなっています。

国籍別にみると、中国が最も多く、次いで米国となっています。



月別では、6月、10月が多くなっています。



(4) 観光客の特性

「出雲市の産業振興政策立案にかかる調査(独立行政法人中小企業基盤整備機構)」において実施された観光客向けアンケートにみられる、観光客の特性は以下のとおりです。

① アンケートの概要

- 調査対象：出雲市内を訪れた観光客(何らかの観光行動を行った旅行者)
- 調査方法：現地(下記参照)での聞き取り調査
- 調査実施場所と回収数：出雲大社(101件)、島根ワイナリー(100件)、
出雲空港(90件)、キララ多伎(89件) 計 380件
- 調査実施日時：島根ワイナリー、出雲空港、キララ多伎…H18/11/18,19
出雲大社…H18/12/2

② 来訪者の特性

- 男女比はほぼ半々、各年代に分散。20代未満で女性の割合が高い(81%)。
- 上記での聞き取り調査によれば、関東、近畿、広島からの来訪者が多い。
- 旅行形態は「個人・グループでの観光旅行」が全体の70%を占める。
- 同行者は、家族および友人づれが半数。同行人数は2人または5人以上。
- 全体の75%が宿泊客。宿泊日数は1泊が73%。出雲市内の宿泊割合は3割弱。
- 出雲市以外の宿泊先は、松江市内と玉造温泉。
- 出雲市内に目的を持って来訪する割合は約6割。
その具体的な目的は「出雲大社・神話・参拝」が多い。
- 出雲市外の立ち寄り先は、「松江市内・玉造」。松江・出雲観光はセット。
- 出雲大社へは、84%と大部分の人が立ち寄り。
- 出雲市内での立ち寄り先は平均2カ所。出雲大社+島根ワイナリーが6割強。
- 出雲ドーム、市民会館、うらら館、出雲文化伝承館、平田本陣記念館等における芸術文化、スポーツイベントで市内外からの来訪者が多い。
- 滞在時間は、3時間未満と3～6時間がそれぞれ30%。
- 交通手段は、来訪及び域内周遊ともに自家用車が6割弱と最も多い。
- 来訪回数は、「初めて」32%、「2～4回」が34%。
- 1人あたりの観光消費額：日帰り客4,123円、市内宿泊客21,522円

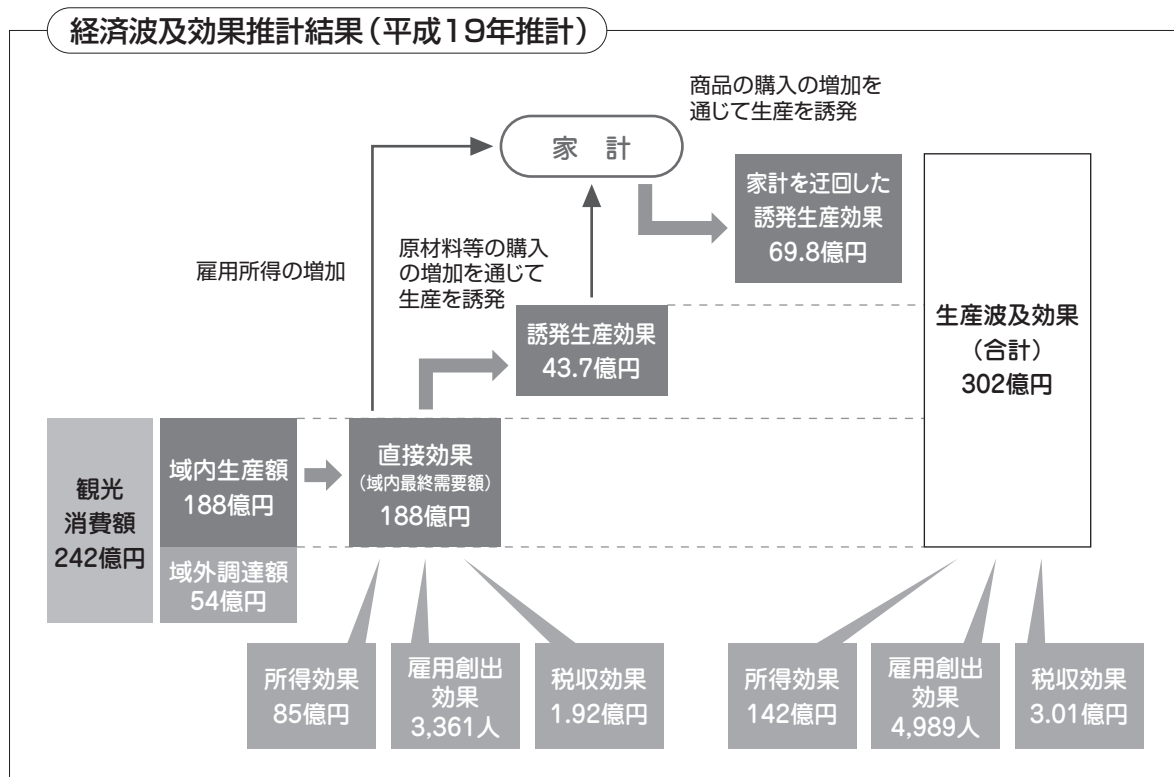
3. 出雲市観光の経済波及効果

(1) 現在の出雲市観光の経済波及効果

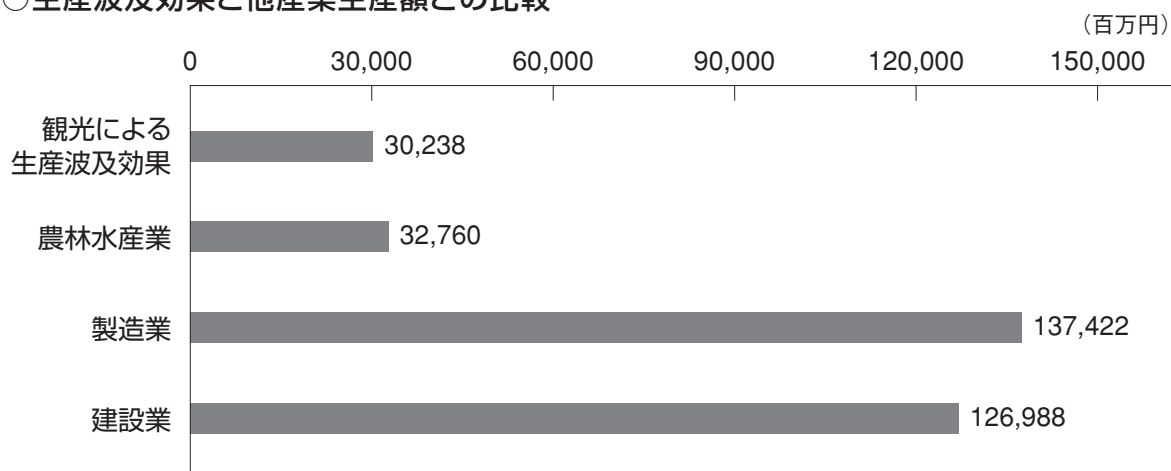
観光の地域経済への貢献度を定量的に把握するため、出雲市における観光の経済効果を「観光地における経済効果推計マニュアル」（平成12年3月（社）日本観光協会）に準拠し推計しました。

なお、推計の基礎データとなる観光入込客数は「島根県観光動態調査」により、平均訪問地点数、平均宿泊数、1人あたりの観光消費額については、「出雲市の産業振興政策立案にかかる調査（平成18年度・独立行政法人中小企業基盤整備機構）」における「出雲市内の観光客向けアンケート調査」より求めています。

平成19年の出雲市の観光入込客数は856万人、宿泊客数は46.4万人であり、これら観光客が出雲市において消費する額の総額は242億円。この内の域内生産額188億円が直接的な経済効果となり、原材料などの購入などにより生産を誘発する生産誘発効果が43.7億円、家計を経由して再度支出され、生産活動を拡大する効果（2次波及効果）が69.8億円で、観光消費がもたらす出雲市全体への生産波及効果は302億円と推計されます。

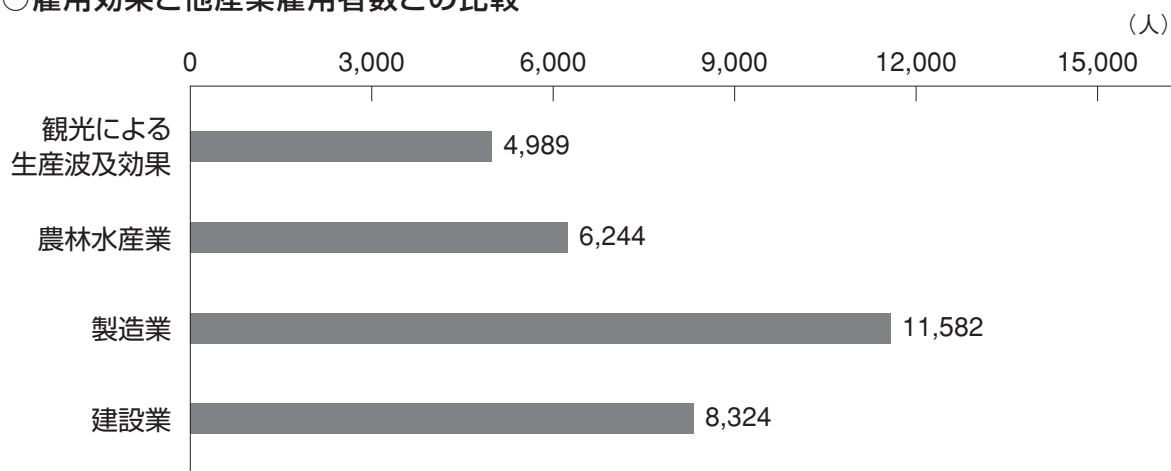


○生産波及効果と他産業生産額との比較



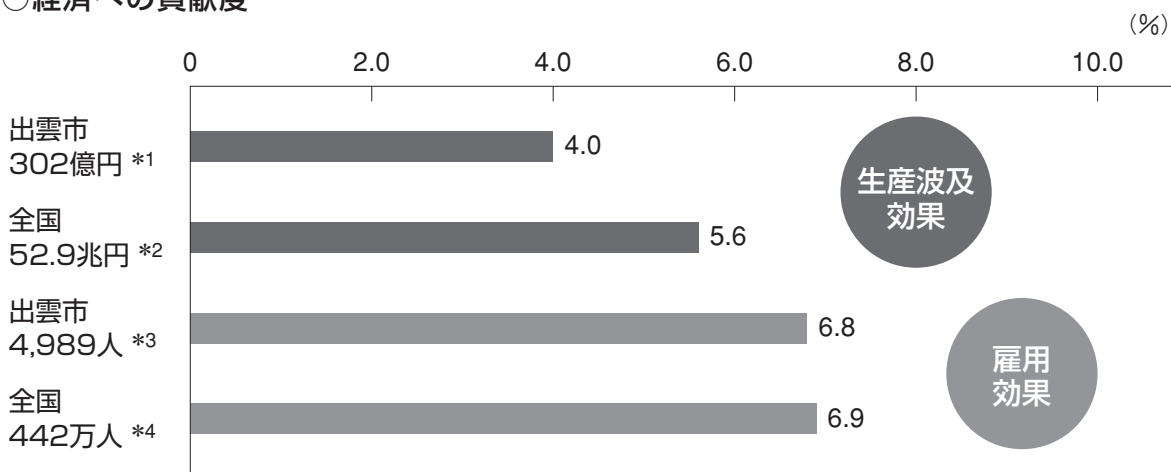
※農林水産業、製造業、建設業の生産額：出雲市産業連関表（2000年）

○雇用効果と他産業雇用者数との比較



※農林水産業、製造業、建設業の就業者数：国勢調査（平成17年）

○経済への貢献度



*1 市内生産額7,533億円に対応（平成12年）

*2 産業連関国内生産額949.1兆円に対応（平成12年）

*3 国勢調査による就業者数73,535人に対応（平成17年）

*4 国民経済計算による就業者数6,404万人に対応（平成17年度）

※ここでの貢献度とは全産業に占める比率

※全国値：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究6」国土交通省・2006年3月

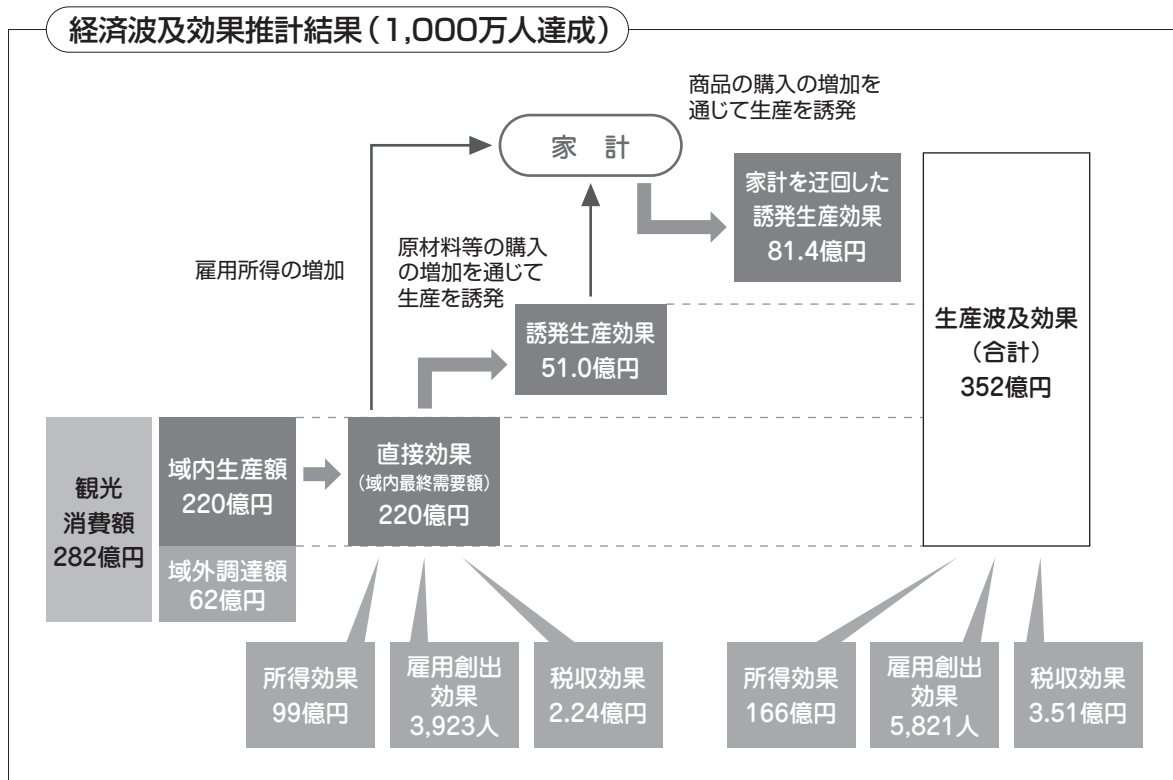
(2) 今後の目標別の経済波及効果の試算

観光計画においては周遊性を増すための方策としての観光コース、ルートの設定を進めていくこととしています。これにあわせて門前町の再生や出雲阿國座（仮称）の事業を進めることで、観光客の回遊性が高まり、滞在時間の増加、観光消費額の増加につながることが考えられます。このような経済効果を期待する中で出雲阿國座（仮称）を位置づけています。この考え方のもとで、以下3つの想定目標にもとづく経済波及効果の推計を行いました。

① 観光交流人口1,000万人が実現した場合

**想定条件：観光入込客数 1,000万人
宿泊客数54万人（宿泊率に変化なし）、消費行動に変化なし**

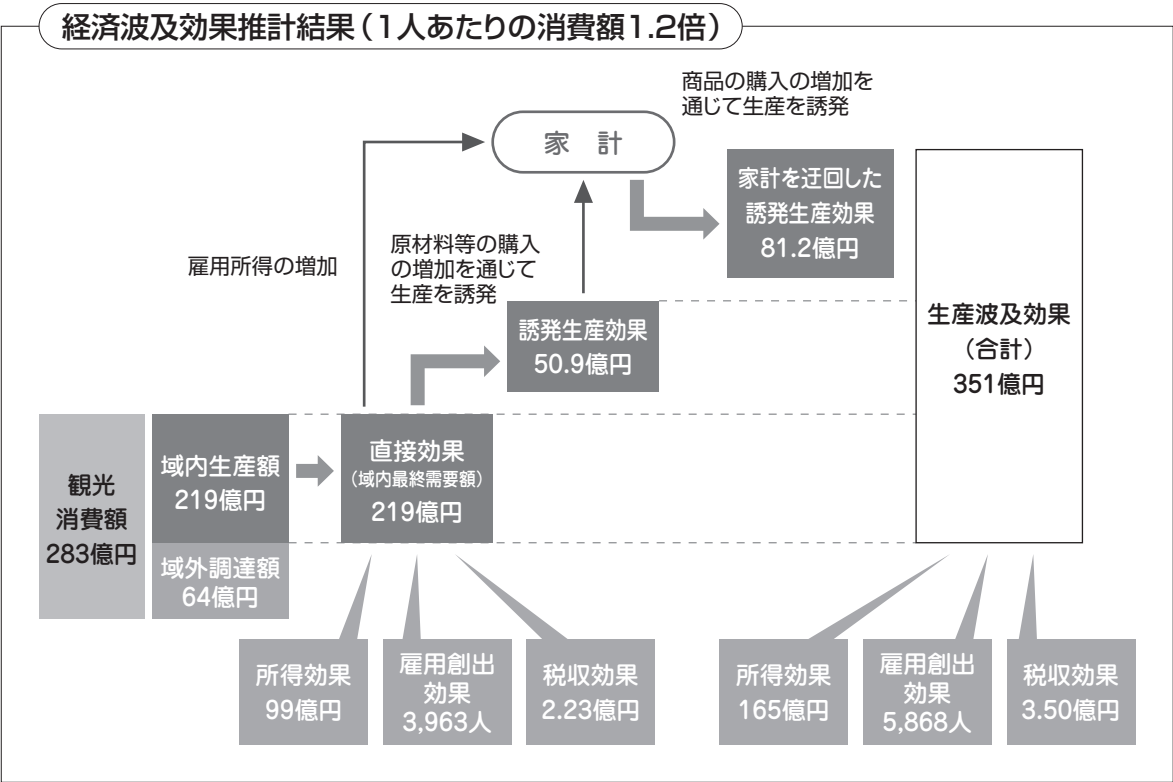
観光入込客数が143.8万人、宿泊客数が7.6万人増加し、観光客の消費支出額は約282億円と、約40億円増加することとなります。生産波及効果は、約50億円増加し、約352億円と推計されます。観光消費額及び経済波及効果は平成19年の約1.17倍となります。



②観光消費単価が増加した場合

想定条件：交通費、飲食費、土産・買物費、入場観覧費の単価2割増
観光入込客数 宿泊客数に変化なし

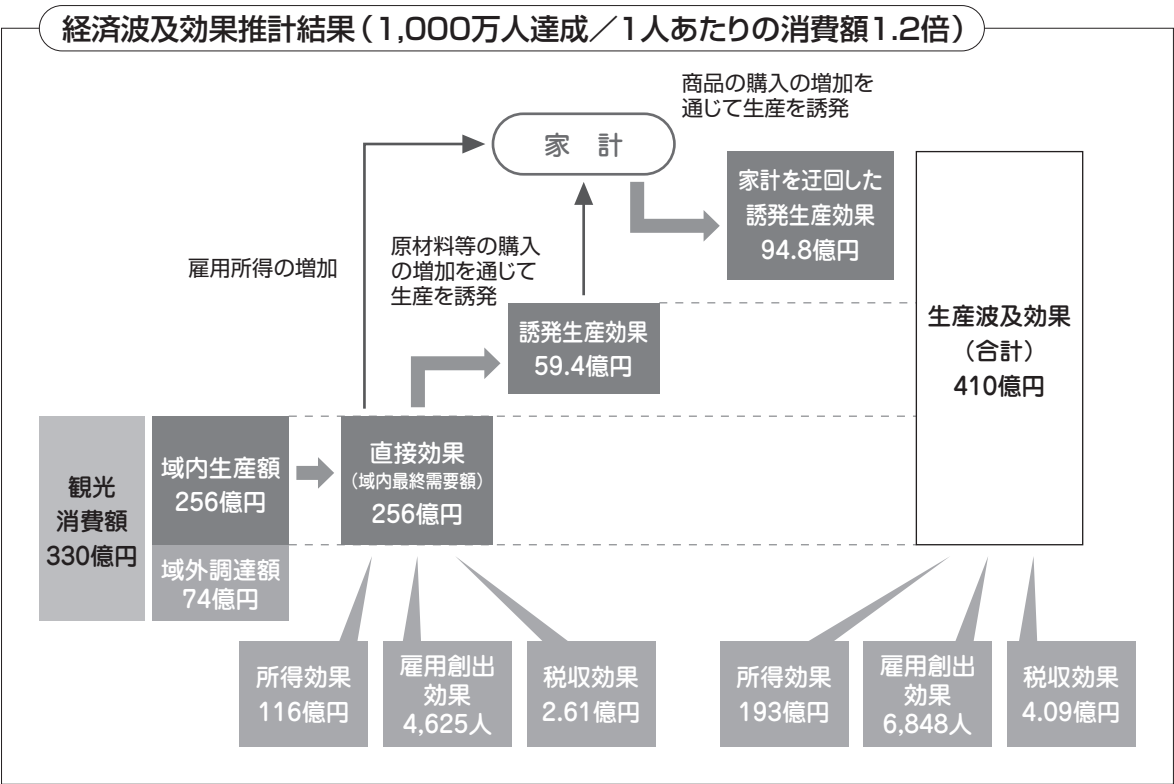
観光客の消費支出額は約283億円と、約41億円増加することとなります。生産波及効果は、約49億円増加し、約351億円と推計されます。これは、交流人口1,000万人を達成した場合とほぼ同様であり、観光客の消費単価をあげることも、観光による経済波及効果を考えていく上で重要な取り組みといえます。



③ ①②を達成した場合

想定条件：観光入込客数1,000万人
交通費、飲食費、土産・買物費、入場観覧費の単価2割増
宿泊客数54万人（宿泊率に変化なし）

観光客の消費支出額は約330億円となり、約88億円増加することとなります。生産波及効果は、約108億円増加し、約410億円と推計されます。2つの想定パターンを達成することにより、観光消費額及び経済波及効果は平成19年の約1.36倍となります。



○試算結果の比較

		10年前	5年前	現状	ケース①	ケース②	ケース③
		平成9年	平成14年	平成19年	交流人口 1,000万人	消費単価 1.2倍	ケース①、② を達成
観 光 入 込 客 数	(人)	6,781,353	6,884,400	8,561,594	10,000,000	8,561,594	10,000,000
宿 泊 者 数	(人)	366,193	371,758	463,819	540,000	463,819	540,000
宿 泊 率	(%)	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4
あたりの消費額 日帰り客1人	飲 食 費	(円)	1,644	1,637	1,421	1,421	1,705
	交 通 費	(円)	422	420	365	365	438
	入 場・観 覧 費	(円)	31	31	27	27	32
	土 産・買 物 費	(円)	2,672	2,660	2,309	2,309	2,771
あたりの消費額 宿泊客1人	宿 泊 費	(円)	10,471	10,972	9,442	9,442	9,442
	飲 食 費	(円)	8,366	8,766	7,544	7,544	9,053
	交 通 費	(円)	521	546	470	470	564
	入 場・観 覧 費	(円)	103	108	93	93	112
	土 産・買 物 費	(円)	4,406	4,617	3,973	3,973	4,768
直 接 効 果	(百万円)	17,005	17,530	18,881	22,030	21,944	25,605
生 産 波 及 効 果	(百万円)	27,238	28,073	30,238	35,281	35,160	41,026
所 得 効 果	(百万円)	12,833	13,219	14,239	16,615	16,584	19,352
雇 用 効 果	(人)	4,502	4,630	4,989	5,821	5,868	6,848
税 収 効 果	(百万円)	271	279	301	351	350	409

* 5年前、10年前の試算については、消費単価を島根県全体の消費単価の現状との比率（対19年比）による推計値。
 宿泊者数を現状と同じ宿泊率での推計値としている。

4. 出雲市観光の課題

本市の観光の現状を整理することによって、「集客力」「周遊力」「情報発信力」「事業推進力」の4つの側面から観光の課題を整理すると以下のとおりとなります。

(1) 滞在力

本市には、出雲大社という全国的な知名度のある観光資源があります。また、神話のふるさとのイメージも浸透しています。しかし、現在の観光は、団体旅行から個人・小グループ化が進んでいることもあり、有名な場所だから訪れるのではなく、自分の趣味、趣向にあった活動や体験などを通して楽しめる場所に訪れる傾向にあります。

したがって、出雲大社+α、神話+αとしてのブランドイメージ、メッセージ性の強いテーマを確立することにより、本市ならではの観光スタイルを提示していく必要があります。

また、本市への宿泊客数は、全体の収容力の40%にも満たず、日帰り観光が圧倒的に多いのが現状です。観光の経済的な効果をより高めることを考えると、本市内での滞在時間や宿泊日数を増やす必要があります。

本市を訪れた人が地域の特色あるイベントや食事や街中散策を楽しめるような宿泊施設、飲食施設、まちあるき空間の充実が必要です。まずは滞在時間を増やし、将来的には宿泊日数の増加につなげるなど計画的に滞在力を高めていく必要があります。

(2) 周遊力

本市における観光は、出雲大社とあと1つの観光資源をまわる程度にとどまっており、本市全体への周遊に結びついていないのが現状です。平成17年3月の2市4町の合併により市域は広がりました。それぞれの地域に特色ある資源が存在することから本市の観光資源はその多様性が増すこととなりました。

それぞれの資源を生かしてさらに個性を発揮し、相互に連携しあうことにより周遊の魅力を高める必要があります。

また、快適な周遊を促すため、道路や標識などの基盤整備をはじめ、各交通事業者が連携した地域内交通の充実や情報提供の充実が必要です。

(3) 情報発信力

本市にどれだけ良い資源があったとしても、その情報が観光客に伝わらなければ来訪にはつながりません。観光情報に対する観光客のニーズには変化が見られ、エリアよりもテーマに関心が移ってきています。また、旅行の個人化・小グループ化によりニーズは多様化しており、訪れたときのその日の情報のニーズも高まっています。

したがって、伝えたい対象に応じた情報の伝達が必要となっており、そのための確な情報伝達ツールの選択とタイムリーな情報発信が求められます。また、このような情報発信を可能とするためには、地域における情報編集体制の整備も必要です。

(4) 事業推進力

観光は、特定の観光施設だけを利用するものではなく、文化や産業、生活風景、人々との交流なども含めて楽しむものです。よって、本市の観光を推進していくためには、市民、行政、観光関連団体、民間企業など様々の主体が連携していく必要があります。

本市における観光事業を強力に推進していくためには、それぞれの主体がレベルアップするとともに、観光施策やその施策効果の情報を共有することが求められます。また、それぞれの主体の利害関係を調整し、連携を強化する新たな組織づくりも求められます。

第2章 計画の基本方針

1. 計画の目標・目指すべき観光地像

本計画の上位計画である「21世紀 出雲のグランドデザイン」においては、基本方針の1つとして

「21世紀出雲神話観光大国の創造」

が掲げられ、「出雲」の全国的な知名度、豊かな歴史・文化資源、自然資源を最大限に生かすため、観光拠点の整備とネットワーク化により、国内外からの多くの観光客の訪れる神話観光大国を創造し、交流人口1,000万人の実現を目指しています。

したがって、本計画の目標は

観光交流人口 1,000万人の実現

とします。

なお、観光交流人口1,000万人を一過性のものとしなないためには、観光交流の質を高めていく必要があります。一度訪問した観光客には再訪を、2度目の方は3度目の来訪を促す観光地域づくりが重要となります。そして、リピーターからさらに発展し、出雲の地をこよなく愛するサポーターを増やしていく必要があります。そのためには、出雲のまちそのものの魅力を高めていくことやホスピタリティの向上など地域全体としての魅力を高めていくことが求められます。

「21世紀 出雲のグランドデザイン」の「神話観光大国創造プロジェクト」においては、以下の3点を掲げています。

- ① 歴史・文化のシンボル空間として出雲大社門前町の整備・活性化
- ② 歴史・文化資源と豊かな自然資源、食材、芸術文化、スポーツ等を活用した観光回廊の整備
- ③ 出雲ブランドの全国発信

これらを通じ本市は、住んでいる人からも、訪れた人からも愛される観光地を目指します。

2. 出雲市観光のテーマ

前章で整理した出雲市観光の現況と課題及び前節の目標に基づいて、出雲市観光のテーマを以下のとおり設定します。

『神話の夢舞台・出雲』 世界を結ぶご縁都市、ご縁を大切にする出雲 ～神話と歴史・文化の地から本物の豊かさを提供～

本市は、古事記、日本書紀および出雲国風土記に登場する出雲神話の舞台としてイメージされています。出雲大社は、神在月(旧暦10月)に全国から八百万の神々をお迎えし、男女の縁などについてお話し合いをされるという言い伝えから、縁結びの神様とされ、「ご縁」を求める来訪者が増えています。また、西谷墳墓群、鰐淵寺、日御碕神社、長浜神社、一畑薬師、佐香神社など古代から中世にわたる歴史・文化資源は、日本のルーツを感じることできる第一級の資源です。さらには、日本海、宍道湖、神西湖、斐伊川、神戸川、緑豊かな山々、肥沃な出雲平野などの自然資源や、伝統ある「出雲そば」をはじめとする豊かで新鮮な食材も大きな魅力であり、芸術文化・スポーツイベント等、新たな観光交流の動きも加速しつつあります。

このような出雲の地に、「ご縁」を求めて来訪し、「ご縁」に触れて感じていただき、「ご縁」を伝えて、「ご縁」ができて何度も繰り返し訪れていただくことを目指します。出雲の本物志向と豊かさを背景にご縁でつながり、広がっていく観光地を目指します。

『神話の夢舞台・出雲』世界を結ぶご縁都市、ご縁を大切にする出雲を観光のテーマに掲げ、神話、歴史、芸術文化、スポーツなどの「本物」を伝え、自然、環境、食などの「豊かさ」、こころとからだの「健康」を提供します。

●出雲市における観光交流の3つの柱



3. 誘客の対象と整備イメージの設定

出雲に対する興味を持ってもらうためには、「出雲」という地名から受ける印象を明確な観光地のイメージとして確立していく必要があります。

そのために、出雲市観光のテーマを踏まえ、誘客の対象とそれに対応した整備のイメージを設定します。

出雲の観光資源をひもといていくと、

- ・「縁結び」……………若い女性、母娘、カップル
- ・「歴史・文化」……………シニア層、子供学習教材、研究者・マニア
- ・「田舎・原風景」……………シニア層、子ども体験学習
- ・「海、リゾート」……………ファミリー層
- ・「スポーツ」……………若年層

など、どの客層にも適応する観光資源、テーマがあることが分かります。個別にみていくと、誘客の対象に応じたイメージ確立が必要となります。

一方、全国的な旅行動向をみると、団塊世代の自由時間の増大からシニア層において旅行需要は活性化しています。反対に、若年層における旅行参加機会は減少しており、若者の旅離れが進んでいます。若年層の旅行市場の掘り起こしは観光業界全体の課題となっています。

こうしたなか、本市は「縁結び」「スポーツ」など比較的、若年層に訴えかける資源を有しているといえます。

そこで、シニア層の需要拡大とともに、若年層の需要の掘り起こしを図る観光地づくりを進めます。

4. 出雲市観光の基本方針

出雲市観光のテーマ「縁のあるまち・出雲」を具現化するために、次の4つの基本方針を設定します。

（基本方針1）

神話の舞台のご縁づくり 滞在力・拠点性のある観光地づくり

出雲大社門前町の拠点性の強化と自然、海、歴史・文化などのエリアごとの特色のある拠点づくりを進めるとともに、地域の食や体験メニューなど魅力向上による滞在力の強化を進めます。

（基本方針2）

出雲路をめぐるご縁づくり 周遊力・テーマ性のある観光地づくり

出雲の神話、歴史・文化、自然環境を起源とした物語性、テーマ性の強い観光ルートを設定するとともに、移動のための交通環境を充実することにより、出雲路の周遊力の強化を進めます。

（基本方針3）

世界に発信するご縁づくり 情報発信力・出雲ブランドを発信する観光地づくり

多様な観光資源からなる出雲の知名度をさらに高めるべく、出雲ブランドの開発、観光情報の編集体制の整備を行い、国内外に向けての情報発信力の強化を進めます。

（基本方針4）

明日につなげるご縁づくり 事業推進力・おもてなしのある観光地づくり

出雲が持続的に発展していくために、各施策の効果を絶えず把握するとともに多様な主体からなる観光推進組織づくりを進めることにより、事業推進力の強化を進めます。

また、市民の出雲への愛着、誇りをさらに深めることにより、地域全体のおもてなし力の強化を進めます。

第3章 計画推進施策

1. 施策の体系

本市の観光を多面的、戦略的に推進し、前章で定めた基本方針を達成するための施策として、次の10の施策を設定します。

(1) 出雲大社を中心とする滞在拠点の整備

…出雲大社を中心とする拠点性の向上

(2) エリアごとの滞在拠点の整備

…エリアごとの拠点の魅力の向上

(3) 滞在促進メニューの開発

…滞在・宿泊を促す魅力あるプログラムの開発

(4) ストーリー性のある周遊ルートの創出

…周遊を促すテーマごとのルートづくり

(5) 交通ネットワークの充実

…快適な周遊を促す交通環境の整備

(6) 広域観光の推進

…周辺地域との連携のもと世界に通じる広域観光圏の整備

(7) 出雲ブランドの確立

…多様な資源を生かした出雲ならではのブランドづくり

(8) 情報編集・発信の充実

…魅力を絶え間なく発信し、幅広い誘客促進

(9) 事業評価・検証・推進体制の確立

…絶えず観光事業の効果を把握し、事業を推進する体制づくり

(10) ホスピタリティ(おもてなしの心)の向上

…市民の出雲への誇りを増進させ、市民参加の仕組みづくり

○出雲市観光基本計画 施策の体系

4つの基本方針

1 神話の舞台のご縁づくり
滞在力
拠点性のある観光地
づくり

2 出雲路をめぐるご縁づくり
周遊力
テーマ性のある観光地
づくり

3 世界に発信するご縁づくり
情報発信力
出雲ブランドを発信する
観光地づくり

4 明日につなげるご縁づくり
事業推進力
おもてなしのある
観光地づくり

10の施策

(1) 出雲大社を中心とする
滞在拠点の整備

(2) エリアごとの
滞在拠点の整備

(3) 滞在促進
メニューの開発

(4) ストーリー性のある
周遊ルートの創出

(5) 交通ネットワークの充実

(6) 広域観光の推進

(7) 出雲ブランドの確立

(8) 情報編集・発信の充実

(9) 事業評価・検証・
推進体制の確立

(10) ホスピタリティ
(おもてなしの心) の向上

施策の内容

- a) 出雲大社門前町まちあるき空間の整備
 - 神門通り(勢溜～大鳥居～吉兆館)、勢溜～歴博、勢溜～稲佐の浜
 - b) 出雲阿國座(仮称)の整備
 - c) 道の駅大社ご縁広場の整備
 - 温泉活用による休憩機能、地場産品などの販売機能の付加
- a) 海のレジャー空間の整備
 - 多伎地域(海浜リゾート)、日御碕地区(夕日、海上メニュー)、鷺鷥地区(漁村空間)、平田地域(風力発電)
 - b) 歴史・文化の探求空間の整備
 - 弥生の森博物館(西谷墳墓群)、たたら製鉄遺跡
 - c) 水辺のレジャー空間の整備
 - 宍道湖、神西湖、神戸川(立久恵峡・わかあゆの里・遊好の里)
 - d) 森林・里山の散策空間の整備
 - e) 街のにぎわい空間の整備
- a) 食の魅力づくり
 - 出雲そばブランドの戦略(特徴の紹介、食べ歩きマップの作成、イベントの実施)
 - 新鮮で安全な地域食材の活用とPR 等
 - b) 朝と夜の魅力づくり
 - 出雲大社への朝参りのストーリーづくり ● 日本海の夕日、ライトアップ、夜のイベント 等
 - c) 体験プログラムと健康促進メニューづくり
 - 歴史体験プログラムの充実 ● 農村体験、農家体験プログラムの充実 ● 教育旅行のプログラムの開発 等
 - d) 宿泊魅力の向上
- a) 神話・縁結びルートの設定
 - b) 歴史・文化ルートの設定
 - c) 海の風景(夕日のスポット)ルートの設定
 - d) 農山村風景ルートの設定
 - e) 多様なテーマによる周遊魅力の創出
- a) 公共交通による利便性の高い周遊機能の整備
 - 観光交通案内機能の整備、観光交通マップの作成 ● 航空機、JR、一畑電車、バス、タクシー等の連携
 - JR出雲市駅の拠点機能の整備 ● 周遊時における携帯情報端末への情報配信の充実
 - b) 自動車旅行環境の整備
 - 標識整備、自動車向けの情報提供、商品開発
- a) 広域観光圏の整備
 - 神話の国縁結び観光協会、山陰文化観光圏 等
 - b) 外国人観光客の誘致への対応
- a) 食のブランド開発
 - 地元食材による新鮮・安全な食のブランド ● いちじくの里整備
 - b) 神話ブランドの開発
 - c) 温泉ブランドの開発
 - d) 出雲全体での地域ブランド化の推進
- a) 観光情報編集体制づくり
 - 観光情報の収集、加工、提供
 - b) イベントによる誘客促進
 - 縁結びイベント、歴史・文化イベント、スポーツイベント等の実施
 - c) 情報の発信、誘致・宣伝活動の充実
- a) 観光基礎調査の実施
 - 観光入込客数調査、観光消費額調査、事業効果測定
 - b) 観光推進のためのネットワークづくり
 - 市民、行政、観光関係団体、観光関連事業者、民間関連事業者の連携
 - c) センター機能を持った観光推進組織の創出
- a) 出雲学講座・学習、出雲まちづくり講座の実施
 - b) 出雲神話伝承・古代出雲ガイド、セールスパースン(セールス人材)の充実・育成
 - c) 観光関連事業者の接遇力の向上

2. 観光推進施策

(1) 出雲大社を中心とする滞在拠点の整備

a) 出雲大社門前町まちあるき空間の整備

出雲大社は年間200万人以上の観光客が訪れ、出雲大社門前町は、出雲のイメージの中心となるシンボリックな空間です。

現在、本市においては「21世紀大社門前町再生・整備事業」を実施しており、出雲大社とその周辺の整備、活性化を進めています。

観光面においても、これらの整備と連動し、特に観光客がまちあるきできる空間づくりが必要です。

① 古代出雲歴史博物館の玄関機能の強化

古代出雲歴史博物館は平成19年にオープンし、古代出雲の歴史を広く詳しく伝える博物館であり、出雲大社に関する資料も多く展示されています。出雲大社に関しての知識があればあるほど、実際に出雲大社へ訪れたときの感動も大きくなります。

歴史文化資料の展示充実、体験学習プログラムの充実にあわせて、古代出雲歴史博物館から出雲大社、神門通り、阿国通りなどへの散策、さらには弥生の森など古代出雲の歴史をめぐる旅へ誘導する案内機能の強化が望まれます。



▲古代出雲歴史博物館（外観）



▲古代出雲歴史博物館（内観）

②まちあるき環境の充実

神門通りを楽しく散策するため、空き店舗を活用し、ギャラリー、休憩処、まちあるき案内所などの整備が必要です。まちあるき案内所には、観光ガイドが待機するなど、まちあるきのためのガイド機能の充実が必要です。また、出雲大社の門前町としての雰囲気醸し出すような沿道の景観整備も必要です。

阿国通り、神迎えの道においても同様に、出雲の阿国、神迎神事の物語性を強調するための、景観整備、歩道整備、休憩処・案内所、案内標識の整備が必要です。

現在の出雲大社観光は、出雲大社の西側の駐車場で、車・バスからおり出雲大社に参拝し、その駐車場近くで食事、買物をして次の観光地へ向かうというパターンが主流になっていますが、現在整備が進められている神門通り交通広場の整備や道の駅大社ご縁広場・吉兆館周辺の駐車スペースを有効に活用し、旧JR大社駅から出雲大社本殿までの幅広いまちあるきを促すことも必要です。



▲神門通り



▲神迎えの道



▲旧JR大社駅

b) 出雲阿國座(仮称)の整備

現在、本市では、出雲大社門前町活性化の中核拠点として、「出雲阿國座(仮称)」の整備事業を進めています。世界の無形文化遺産である歌舞伎の始祖・出雲阿国の生誕地として、全国・世界に向けた日本の伝統文化の情報発信舞台として、また、地域の伝統芸能の保存継承の場として整備するものです。「出雲阿國座(仮称)」と他の資源との連携の強化、役割分担を行うことによって、出雲大社門前町の相乗的な魅力アップにつなげていきます。

①出雲大社周辺の集客力の向上

「出雲阿國座(仮称)」の整備により、出雲大社の周辺に新たな魅力が加わることで、集客力の向上につながります。

出雲大社、古代出雲歴史博物館、出雲阿國座(仮称)の3つの拠点的な施設が歩いて回れる位置に集積することにより、回遊性が強化され、滞在時間の増加につながります。

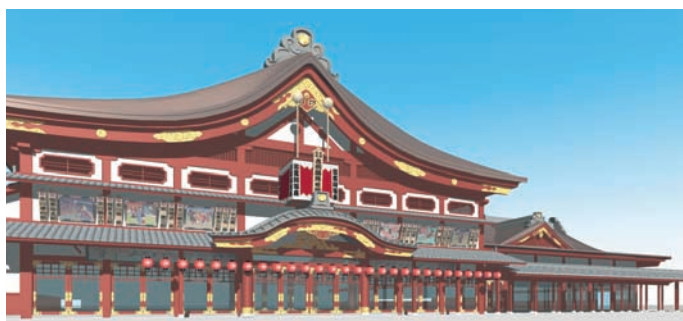
これら3つの資源がそれぞれの役割を果たし、門前町との連携やPRを強化することにより、出雲大社門前町のさらなる集客力の向上および滞在時間の向上、賑わいの創出につなげることができます。

②伝統文化の情報発信舞台

「出雲阿國座(仮称)」は、島根の歴史文化全体の発信基地・周遊拠点である古代出雲歴史博物館に対し、日本の伝統文化の情報発信舞台として、また、出雲地域の伝統芸能をより掘り下げ、発信していく施設として位置づけます。

歌舞伎はもとより、能・狂言、文楽などの世界無形文化遺産の舞台公演のほか、市民の伝統芸能の活動拠点として、江戸時代から続く芝居文化の継承や神楽、地歌舞伎などの舞台公演、保存継承の場、次代を担う子供たちの学習の場として、市民から伝統文化を情報発信する場としても活用します。

古代出雲歴史博物館が「静」の施設であるのに対し、出雲阿國座(仮称)は「動」の施設として、様々な伝統芸能の活動拠点としての役割、機能の集積を進めます。



▲出雲阿國座(仮称)〈イメージ図〉



▲子どもたちへの立廻り指導

c) 道の駅大社ご縁広場の整備

道の駅大社ご縁広場は、大鳥居の近くにあり、大社観光の情報発信を行っています。しかし、ここに車をとめて参拝に向かう人の流れはあまり多くなく、車窓から大鳥居をながめるのが通常の観光コースとなっています。

神門通りの賑わいを創出するという観点から、道の駅大社ご縁広場は重要な場所に位置しており、また、付近に温泉も湧出していることから、出雲大社の回遊性をさらに高めるため、道の駅大社ご縁広場の整備が必要です。

①出雲大社、神門通りの玄関機能の充実

道の駅大社ご縁広場を出雲大社の参拝、神門通りの散策の玄関口として位置づけ、まちあるきの仕組みづくりを進めます。また、出雲大社神門通りと日御碕へとつながる東西にのびる道路の交差点という立地を最大限に生かすため、道の駅大社ご縁広場の情報発信機能を充実させるとともに、物産販売機能を整備し、出雲大社、神門通り散策への拠点として、さらには、その後の出雲観光への拠点としての役割を高めます。

②温泉の活用

拠点性の向上、立寄施設としての魅力向上のため、湧出している温泉を活用し、門前町散策で疲れた足を休める場所として足湯の整備の検討も必要です。

散策後の休憩施設の役割を持たすことにより、道の駅大社ご縁広場から散策をはじめ、最後にまた道の駅大社ご縁広場へ戻ってくる動機付けとなることが期待できます。

(2) エリアごとの滞在拠点の整備

a) 海のレジャー空間の整備

本市には、田儀から岐久海岸、稲佐の浜、日御碕、鶴鷺、そして平田にいたるまで豊かな海岸線が広がります。それぞれの地区において、海を活用した観光、レジャーが行われています。

したがって、それぞれの海岸地区の特色を活かしたレジャー空間の整備が必要です。

①多伎地域海岸部：海浜健康リゾート空間の充実

この地区には、道の駅「キララ多伎」があり、この地区のマリンスポーツ、観光・レジャーの拠点となっています。キララビーチの近くにある見晴らしの丘公園には北欧風のキララコテージが整備されているほか、マリンタラソ出雲をはじめとする健康・温浴施設もあり、海浜リゾート的な雰囲気を持っています。

ここでは海水浴にあわせて、海辺でゆったりと日光浴や温泉浴をしたり、海辺や夕日を眺めながら食事を楽しむなど「海浜リゾート」、「健康」をテーマとした海のレジャー空間の充実が必要です。



▲マリンタラソ出雲



▲キララ多伎とキララビーチ

②日御碕地区：海への展望と海からの展望を楽しむ夕日の眺望空間の充実

この地区には、出雲国風土記に登場する古社・日御碕神社があり、出雲大社の近隣に位置することもあり出雲大社につぐ集客力のある地区となっています。新鮮な魚介類を食べることのできる店の集積や遊覧船の運航などが行われており、特に夏に多くの観光客が訪れます。大山隠岐国立公園内にあり、石積みとしては日本一の高さを誇る灯台から見る海は絶景であり、近接地ではホテル誘致なども進めています。また、経島は西日本を代表するウミネコの繁殖地として、天然記念物に指定されています。

昼間のみならず夜も楽しめる空間として、ここでは夕日にスポットをあて、夕暮れ時に立ち寄る場所として、夕食も楽しめる場所として整備が望まれます。また、海からの景観を楽しむ遊覧船の運航も望まれます。



▲日御碕灯台



▲日御碕神社

③鵜鷺地区：漁村空間の積極的活用

鵜浦には、北前船の港として古い街並みが残っています。立派な鰻絵のある古民家や各戸に表札とは別に屋号がかかるなど、独特の文化が残っている地区です。物置や物干しに使っていた「もだり*」や冬の季節風を防ぐ「間立て*」が残っているなど、建築的にも非常に貴重な資源であり、これを保存し観光に活用することが必要です。

現在この地区で行われている空き家の活用、漁村生活体験の提供を支援するなど、特に、大学の学生との交流など若い世代、都市住民にむけて、漁村空間の積極的活用の検討が必要です。



▲漁村生活体験

④平田地域海岸部：新出雲風力発電所の観光的活用

この地区には、平成21年4月から26基の風車が設置され、日本最大級の新出雲風力発電所が稼動する予定です。また、十六島、塩津、美保の3箇所に風車公園の整備も予定しています。風力発電事業に関する新エネルギー学習施設として、また、眺望を楽しむなかで、新エネルギー資源を体感できる空間として整備します。

風車公園からは、出雲平野や日本海が一望でき、天気の良い日には遠くに隠岐の島を望めることから、新たな観光スポットとして位置づけます。

また、海から風車等の景色が見れるよう遊覧船の運航についても検討していきます。



▲海から見た風車の風景

* もだり：玄関横にあるタタミ2畳ないし3畳分の広さの縦長の室外空間のことを指す。

* 間立て：日本海の冬の季節風など、吹きつける強い潮風から家を守る竹の垣根のこと。奥能登の海沿いの家にもみられ、間垣（マガキ）と呼ばれる。

b) 歴史・文化の探求空間の整備

本市には、出雲大社の他にも、西谷墳墓群、田儀櫻井家たたら製鉄遺跡、鰐淵寺、日御碕神社、須佐神社、長浜神社、一畑薬師、佐香神社などの神社仏閣など多くの歴史・文化資源が存在します。

これほどの多くの史跡や神社仏閣が集積する地域は他にはなく、それぞれの歴史的、文化財的価値の専門的な調査を行うとともに、観光客が出雲の歴史・文化を体験し、探求できる空間の整備が必要です。

① 弥生の森博物館の整備

弥生の森博物館は、2010年春オープンを目指し、国指定・西谷墳墓群史跡公園の隣接地に現在建設中です。出雲の地に多く存在する遺跡に関する情報を集約し発信する施設として整備します。

また、古代出雲歴史博物館や荒神谷博物館、加茂岩倉ガイダンスとの連携を強化し、市内のみならず古代出雲の歴史・文化の史跡をつなぐ拠点づくりを進めます。



▲弥生の森博物館〈イメージ図〉



▲弥生の森博物館〈イメージ図〉

②たたら製鉄遺跡の拠点整備

出雲の地は、日本古来の製鉄方法であるたたら製鉄が盛んであった地でもあり、国指定田儀櫻井家たたら製鉄遺跡、朝日たたら跡などの遺跡があります。

この地にたたら製鉄が盛んに行われたのは、仁多櫻井家（奥出雲町）の分家として田儀櫻井家が興り、山間や海岸近くに多くのたたらを設けたためです。たたら原料となる砂鉄や炭、鉄製品などを港を利用した海運によって、搬出入し、大きく成長しました。出雲大社と石見銀山との中間点にもなる場所でもあり、観光資源としての整備活用も検討します。

また、現在もなおたたら製鉄が行われている奥出雲町とも連携を図りながらたたら製鉄の歴史・文化を発信する拠点としての遺跡の保存、整備を進めます。



▲田儀櫻井家たたら製鉄遺跡

③神社仏閣の観光的活用による保存・整備

出雲の地に数多く集積する神社仏閣には、古事記、日本書紀、出雲国風土記に登場する古社も数多く、全国的にみても貴重な資料、資源となっています。

文化財的価値からの保存にあわせて、観光的価値として、分かりやすく地域内外にその価値を発信すること、観光資源として活用するための環境整備が必要です。

④歴史・文化データベースの構築とガイドの養成

上記の通り本市には多くの歴史・文化資源が存在します。観光客にとって分かりやすく、来訪の動機付けになるような情報として、データベースを構築します。また、歴史・文化愛好者や研究者にとっても有益となる詳細な情報も付加することで、興味の段階に応じたの情報提供が可能なデータベースとします。

また、それらの情報を、人を通して観光客に伝えるガイドの養成もあわせて行います。

c) 水辺のレジャー空間の整備

本市には、斐伊川と神戸川の2大河川と宍道湖と神西湖の2つの汽水湖があります。

この2つの汽水湖と河川において、親水性豊かな水辺空間づくりとして、水辺および水上においてのレクリエーション、自然学習、飲食機能の充実を図ることにより水辺のレジャー空間の有効活用が必要です。

①宍道湖：既存施設の活用による学習・体験機能の充実

宍道湖においては、西岸地域に整備されている湖遊館、宍道湖自然館（ゴビウス）、親水公園などの既存資源を活用し、カヤックやカヌーなど水辺のレクリエーションの場、バードウォッチングなど自然環境教育の場として、学習・体験メニューの充実が必要です。



▲湖遊館

②神西湖：既存施設の活用による飲食機能の充実

神西湖においては、親水公園や遊歩道の整備や国民宿舎国引荘の改修が行われ、屋形船を就航するなど魅力の向上が図られています。飲食メニューの充実等これら施設のさらなる活用により、水辺や水上でのレジャーやレクリエーションの場として魅力付けが必要です。



▲神西湖で周遊する屋形船

③神戸川：立久恵峡わかあゆの里キャンプ場の再整備と遊好の里など親水空間の充実

豪雨災害後の立久恵峡について再整備を進め、渓谷の景観美を楽しむ自然散策と飲食の場および温泉を生かした滞在の場としての充実を進めます。

また、遊好の里においては、カヌーや親水性を生かしたスポーツ・レクリエーションの場としての充実を図るほか、親水公園の整備など神戸川沿い親水空間の充実を進めます。

d) 森林・里山の散策空間の整備

本市の郊外には、田園、里山、森林の風景が広がります。

緑豊かなこのエリアにおいて、自然環境と温泉による癒しの場の空間を整備するとともに、農業体験などの体験学習機能の充実による森林・里山レジャー空間の整備が必要です。

また本市では、国際保護鳥トキの分散飼育の誘致を進めており、観光振興においても森林・里山をはじめとする自然環境への意識を高めていく取り組みも必要です。



▲国際保護鳥トキ
(資料提供:佐渡トキ保護センター)

①既存施設の活用による癒しの場の創出

目田森林公園の活用や温泉施設ゆかり館、スサノオ館、八雲風穴、農産物直売所の連携強化により、森林浴、温泉浴などの癒しの場づくりが必要です。

さらに、須佐神社の七不思議などを活用し、自然環境の体験・学習メニューの充実も必要です。



▲目田森林公園

②農業体験、農家体験プログラムの充実

農作物の収穫体験、味覚体験、農家での宿泊体験など、田舎の本物の豊かさを伝えるプログラムの充実が必要です。

現在、佐田地域において、空き家になっていた古民家を改装し、昔ながらの暮らしの体験、古民家でのスローライフ*体験を提供している「一縁荘」があります。また、米粉と牧場の新鮮な牛乳や地元の新鮮な野菜・果物を使ったパンの販売をはじめ、バターづくり体験、ピザ釜をつかったピザ焼き体験などを提供している「カウベル」などの地域が連携した取り組みがあります。

このような地域の資源を活用した体験メニューの充実が必要です。



▲一縁荘

* スローライフ：生活様式に関する思想の一つで、ファーストフードなどの大量生産、高速型の生活様式に対し、地産地消や歩行型社会を目指す生活様式を指す。

e) 街のにぎわい空間の整備

本市には、都市の核としてのJR出雲市駅周辺および本市と松江市をむすぶ交通の要衝である平田地域に中心市街地が形成されています。

都市としての本市の顔であるこれらのエリアに街としてのにぎわい空間の整備が必要です。

① JR出雲市駅周辺

JR出雲市駅周辺にはホテル等の宿泊施設が集積しており、本市を訪れる観光客、ビジネス客の拠点になっています。

夜の繁華街で出雲ならではの食の充実を図ることにより、滞在の魅力づけを行い、にぎわいの創出を検討します。

また、市街地の外湯として、「らんぷの湯」や「えんや温泉」を活用するなど、他に例のない街の魅力の向上が望まれます。



▲JR出雲市駅

② 平田地域中心市街地（木綿街道）

木綿街道において、町並み、川並みの歴史的景観・建造物の保存・修景など、木綿街道のにぎわい空間としての整備を進めています。また、旧石橋酒造の跡地を市民の交流拠点、観光客の案内拠点とするなど、街のにぎわい創出を検討します。

さらには、この地域の伝統芸術である一式飾りを活用した、このエリアならではの街の魅力づけを進めます。



▲木綿街道

(3) 滞在促進メニューの開発

a) 食の魅力づくり

地域ならではの食の魅力は、最も観光客をひきつける要素といえます。また、食の魅力は、その地への滞在の動機付けにもなります。

出雲の食文化を積極的にPRし、出雲ならではの食を提供することにより、本市での滞在を促進します。

①出雲そばブランド戦略

出雲そばは、この地方の独特の食文化です。出雲そばは、「そばの実を甘皮ごと挽く」「割子で食べる」のがその特徴です。その特徴を生かして、出雲の食のブランド化とPRを進めます。また、出雲そば食べ歩きマップの作成やイベント開催などによる出雲そばのブランド確立が必要です。

②地域食材の活用とPR

本市は、海の幸、山の幸ともに豊富であり、出雲の食は、その多くが地域の食材でまかなわれています。安全な食の提供ということも魅力の一つです。さらに地域食材を積極的に活用しPRをすることにより出雲ならではの安全な食ブランドの確立が必要です。

③食育の推進

安全な食材の豊富な出雲において、その食材を活用し、食に関する知識を教え、自らの食を自分で選択する判断力を身に付けさせる食育プログラムを推進します。



▲食育：そば打ち



▲出雲そば



▲十六島のり



▲大和しじみ



▲島根ぶどう



▲多伎いちじく



▲西条柿

b) 朝と夜の魅力づくり

本市での宿泊を促すためには、市内で夕方から夜にかけて、あるいは、朝に楽しめるメニューが必要となります。

本市の多様な資源を活用し、朝、夜の魅力づくりが必要です。

①朝の散策プランの充実

早朝の出雲大社参拝を宿泊のオプションプラン*化するなどの朝食前の活動プランの創出や朝食メニューの充実など、出雲の朝の魅力づけが必要です。

また、朝市の開設や稲佐の浜で毎月一日に行われる潮汲みという行事などの効果的な活用が望まれます。

②夜のまちあるきプランの充実

出雲大社や日御碕神社などの夜の神秘的な雰囲気醸し出すためのイベントとして、歴史的な建造物や参道のライトアップや野外コンサート等により、夜だからこそ味わえる魅力の創出が必要です。

また、中心市街地においては、繁華街で地域の食事、お酒を楽しむことも観光の魅力です。はじめて訪れた観光客、ビジネス客でも気軽に楽しめる夜の食べ歩き・飲み歩きマップの充実や食べ歩き・飲み歩きイベントの創出など出雲の夜の魅力づけが望まれます。

③夕日めぐりプランの充実

日御碕や稲佐の浜、またキララ多伎をはじめとして、海岸線から眺める夕日は絶景です。この長い海岸線などを利用して、夕日のビューポイントを設定し、それぞれの日の入り時間の情報を各観光施設の掲示板や携帯電話のインターネットサイトなどでタイムリーに提供するなど、夕日を楽しむプランの創出が必要です。

参考

「潮汲み」

稲佐の浜では、毎月一日に実施。朝7時に越峠荒神社に集合し「神迎の道」を通り稲佐浜へ向い、潮を頂く。その後、因佐神社・上之宮・下之宮・都の稲荷へ参拝し、出雲大社では月始祭に参列。だれでも自由に参加可能。潮汲みに利用する竹筒は、花を飾る器としても利用可。

参考事例

「はこだてバル街」～夜のイベントの創出

函館市西部地区で行われている飲み歩きイベント。夜に街に出て頂く、市民イベントとして実施。協力各店でチケット1枚でドリンク1杯とおつまみ3品を提供するイベント。チケットは5枚綴りで2,500円で販売。

* オプションプラン：標準のサービスの他に、利用者の選択可能なサービス

c) 体験プログラムと健康促進メニューづくり

本市の多様な資源を生かし、一年を通して滞在を楽しむことができるテーマ別の体験プログラムの充実に努めます。

また、これからの旅には、旅に出ることにより健康になることも求められており、健康になることを目的としたツアーも増えています。

①歴史体験プログラムの充実

本市には、西谷墳墓群、今市大念寺古墳、中村1号墳など弥生時代から古墳時代の古代遺跡が数多く確認され、今なお新しい発見が続いています。さらに出雲大社や田儀櫻井家たたら製鉄遺跡、平田木綿街道など、人々の信仰や産業など様々な分野においても貴重な文化財が今に受け継がれるなど、出雲の歴史を語る上で欠くことのできない歴史遺産が市内各所に所在しています。これらの歴史遺産を活用し、様々な年代層を対象とした体験型学習プログラムの開発、充実に努めます。

また、現在建設中の「出雲弥生の森博物館」を核として出雲の歴史的魅力を内外に発信するとともに、遺跡等の現地においても体験学習がより一層取り組めるよう遺跡周辺の環境整備を推進していきます。

さらに、古代出雲歴史博物館や荒神谷博物館、加茂岩倉ガイダンスなどとも連携した広域的な体験学習についても検討していきます。

②農業体験、農家体験プログラムの充実【再掲】

農作物の収穫体験、味覚体験、農家での宿泊体験など、田舎の本物の豊かさを伝えるプログラムの充実が必要です。

現在、佐田地域において、空き家になっていた古民家を改装し、昔ながらの暮らしの体験、古民家でのスローライフ体験を提供している「一縁荘」があります。また、米粉と牧場の新鮮な牛乳や地元の新鮮な野菜・果物を使ったパンの販売をはじめ、バターづくり体験、ピザ釜をつかったピザ焼き体験などを提供している「カウベル」などの地域が連携した取り組みがあります。

このような地域の資源を活用した体験メニューの充実が必要です。

③漁村体験プログラムの充実

漁村での宿泊体験など、漁村の生活を伝えるプログラムの充実に努めます。

鵜鷺地区において、街並み探検や塩炊き体験、



▲塩炊き体験

空き家での宿泊体験など漁村体験プログラムを提供している「鵜鷺げんきな会」などの取り組みをはじめ、今後、民宿、キャンプ場との連携により漁村体験プログラムの充実が望めます。

④産業観光プログラムの充実

本市では、新エネルギーに関する施設等を実際にみて触れることにより、今後のエネルギーのあり方などについて理解を深めることを目的に、市域全体を、新エネルギーをテーマとした「出雲市次世代エネルギーパーク」とする計画を進めています。出雲科学館を中核施設として、日本最大規模の新出雲風力発電所や十六島風車公園（仮称）、さらには、既存の風の子楽習館において、体験学習を含めた新エネルギーに関する産業観光を進めます。

また、多伎地域で現在整備を進めているいちじくの里においても、多様な学習・体験プログラムの充実を進めます。さらに、島根ワイナリーや出雲路ビール工場などの製造工場、高橋鍛冶屋、長田染工場などの伝統工芸の見学などを活用した産業観光プログラムの充実が望めます。



▲出雲科学館



▲風の子楽習館



▲島根ワイナリー



▲いちじく館〈イメージ図〉

⑤健康促進メニューの創出

高齢化社会の進展、生活環境の変化などにより健康や体力の回復・維持・増進などを目的とした観光が注目され始めて、全国各地で実験的な取り組みが行われています。また、観光における「温泉浴」のニーズはどの世代にも多く、温泉を核とした癒しの旅行、健康ニーズは高くなっています。

中国地方初の本格的タラソテラピー*施設である「マリントラソ出雲」や各地域にある温泉及び温浴施設を活用した健康促進メニュー創出の検討を進めます。



▲マリントラソ出雲



▲出雲ゆうプラザ



▲平成温泉



▲北山健康温泉

⑥教育旅行のプログラムの開発

全国的な旅行動向として、若年層における旅行参加機会が減少しており、若者の旅離れが進んでいます。修学旅行やスポーツ合宿などの教育旅行は、若者の旅行参加機会の1つであり、ここでの良い旅行体験は、リピーターにもつながります。

本市の有する神話、歴史、芸術文化、スポーツなどの資源を最大限に活用し、教育旅行のプログラム開発を進めます。

* タラソテラピー：海洋療法。海藻を食べたり体に塗って赤外線を浴びたりする療法や、海水プールでの弛緩（しかん）療法などさまざまな療法がある。

d) 宿泊魅力の向上

本市において、宿泊を促進するためには、滞在促進メニューづくりにあわせて、宿泊施設そのものの魅力づけが必要となります。

現在の宿泊客の満足度を的確に把握することによるニーズに対応した宿泊施設の魅力の向上やインターネットでの販売、予約システムの充実など宿泊客の利便性の向上、誘客の対象を明確にした効果的なプロモーション*の検討が望まれます。

また、魅力的な温泉があることは、滞在の大きな動機付けとなります。既存の温泉旅館の魅力付けが求められるとともに、既存の日帰り温浴施設等とビジネスホテルとの連携など、新たな宿泊の魅力づくりも必要です。

なお、魅力ある宿泊施設の整備について支援の検討を行います。

* プロモーション：販売促進、宣伝活動

(4) ストーリー性のある周遊ルートの創出

a) 神話・縁結びルートの設定

本市は、古事記、日本書紀および出雲国風土記に登場する出雲神話の舞台としてイメージされています。出雲大社は、神在月(旧暦10月)に全国から八百万の神々をお迎えし、男女の縁などについてお話し合いをされるという言い伝えから、縁結びの神様とされています。

この出雲の中心的なテーマである「神話」や「縁結び」について、物語性のある観光ルートの創出が必要です。

①神話・縁結びに関する物語の紹介

出雲の神話は、古事記、日本書紀、出雲国風土記に記され、それらの研究者による文献も豊富です。それらを分かりやすく、興味を持ちやすい形で紹介することが必要です。

②神話・縁結びルートの設定とPR

上記の取り組みとあわせて、神話・縁結びルートとして設定します。

ルートの設定にあたっては、半日コース、1泊2日コースなど、さまざまな場面、ニーズに対応できるような自由度の高い設定やインターネット上などで観光客自らが選択して設定できるような仕組みづくりが必要です。

PRにあたっては、時間、費用、観光ガイドの情報や途中で味わえる味覚など、具体的な情報提供が必要です。



▲出雲大社参拝風景

b) 歴史・文化ルートの設定

本市には、西谷墳墓群をはじめとする古代出雲の史跡が多く存在します。また、歌舞伎の始祖といわれる出雲阿国ゆかりの観光資源、武蔵坊弁慶が修行したという鰐淵寺、江戸時代の商いの賑わいを残す木綿街道など歴史・文化資源が集積しています。

この出雲の「歴史・文化」について、物語性のある観光ルートの創出が必要です。

①歴史・文化に関する物語の紹介

出雲の歴史・文化については、古代出雲歴史博物館において総合的に情報が集約されています。これを活用し、市内の遺跡など現地を訪れてみる動機づけになるように、分かりやすく、興味を持ちやすい形で広く紹介することが必要です。

②歴史・文化ルートの設定とPR

上記の取り組みとあわせて、歴史・文化ルートとして設定し、古代出雲歴史博物館、弥生の森博物館、荒神谷博物館、加茂岩倉ガイダンスを通じたPRの強化を図ります。さらには、出雲阿国座（仮称）とも連携したコース設定、PRも必要です。

ルートの設定にあたっては、神話・縁結びルート同様に自由度の高い設定や仕組みづくりを行うとともに、神話・縁結びルートとの複合化による魅力づけも必要です。



▲鰐淵寺



▲本石橋邸



▲出雲阿国の墓

c) 海の風景(夕日のスポット)ルートの設定

本市には、日本海沿岸の海と漁村というすばらしい自然景観と大都市にはない海辺の生活があります。また、温泉や温浴施設、キャンプ場やコテージなどの宿泊施設もあります。

これらの資源を生かした漁村体験プログラムの充実とあわせた、本物の体験を満喫できる観光ルートの創出が必要です。

日本海の海岸線とそこに沈む夕日、奇岩や絶壁が続く景勝地日御碕とその先端に立つ出雲日御碕灯台、ウミネコの繁殖地である経島、風車の立ち並ぶ十六島などの特徴的な景観や鷺浦地区のまちなみなどをめぐる海の風景ルートの設定と景観整備、各種情報媒体でのPRが必要です。



▲風車と夕日

d) 農山村風景ルートの設定

本市には、海とともに里山・森林・農村というすばらしい自然景観と大都市にはない田舎の生活もあります。

これらの資源を生かした農村体験プログラムの充実とあわせた、本物の体験を満喫できる観光ルートの創出が必要です。

本市南部には「山陰の耶馬溪」と称され、奇岩、柱石がそそりたつ立久恵峡や目田池のほとりにある目田森林公園などの自然散策の場があります。また、平野部には、冬の季節風から屋敷を守るために築かれた出雲平野特有の築地松の風景があります。これらをめぐる農山村風景ルートの設定と各種情報媒体でのPRが必要です。

また、出雲の田園風景の中を走る一畑電車とも連携した観光ルートの検討が必要です。



▲立久恵峡



▲築地松



▲一畑電車

e) 多様なテーマによる周遊魅力の創出

本市には、神話、歴史・文化、海・山の景観以外にもたくさんの資源があります。

新エネルギー製造施設や食品製造施設、観光農園や伝統工芸展示施設などを活用した産業観光、テレビや映画のロケ地をめぐるフィルムツーリズム*、出雲の特産品を活用した食べ物めぐりなど、多様な観光資源を生かしたテーマを検討し、観光ルートとしてむすびつけることでの魅力の創出が必要です。

例えば、新エネルギー製造施設である新出雲風力発電所やキララトゥーリマキ風力発電所、食品製造施設である島根ワイナリーや出雲路ビール工場や西浜いもなどの観光農園、高橋鍛冶屋、長田染工場などの伝統工芸見学などを活用した産業観光をテーマにしたルートやNHKの連続ドラマ小説「だんだん」や映画「白い船」「BATADEN」のロケ地めぐり、西浜いもやいちじく、ブドウなどの特産品を活用したスイーツめぐりなどがあげられます。

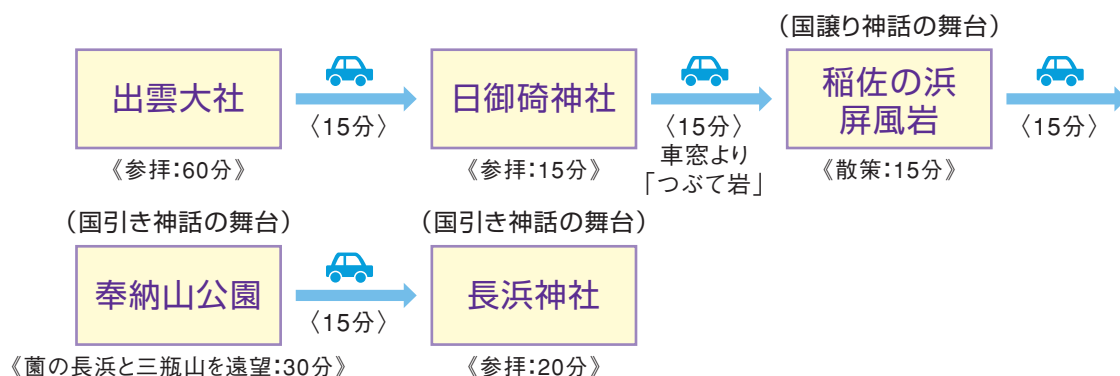
これらのルートの検討にあたっては、縁結びは若い女性客、神話・歴史・文化はシニア層や愛好家、田舎体験は都市の子どもなど、テーマにより惹き付けられる客層は変わってきます。旅行の個人化・小グループ化により観光客の求めるテーマは多様化しています。

これらニーズの多様化に対応すべく、豊富な出雲の観光資源と性別、年代、旅行形態などにより分かれる対象者のニーズを分析し、それぞれのニーズを満たすテーマの掘り起こしを検討します。

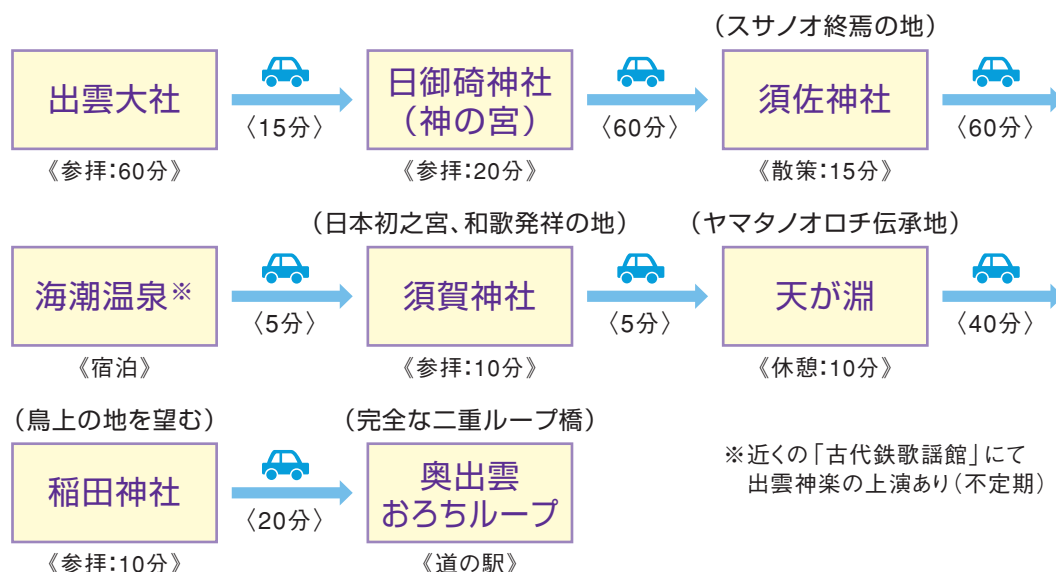
* フィルムツーリズム：ロケ地観光。映画・ドラマ・CM等のロケ地を素材として活用した観光。

■自家用車やタクシーを利用したモデルコース案

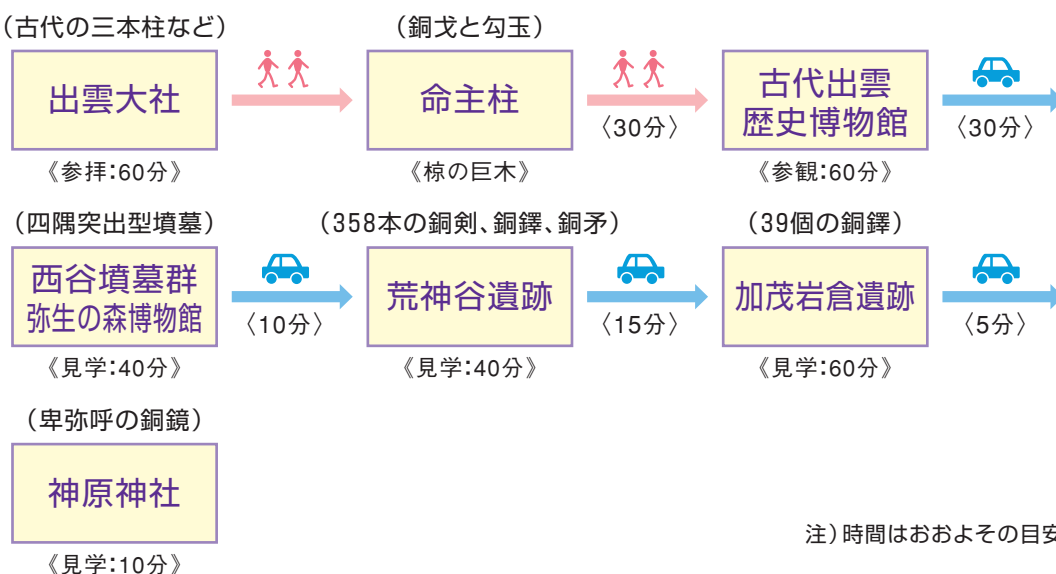
出雲大社からの回遊コース



広域コース:「スサノオの道」を訪ねて



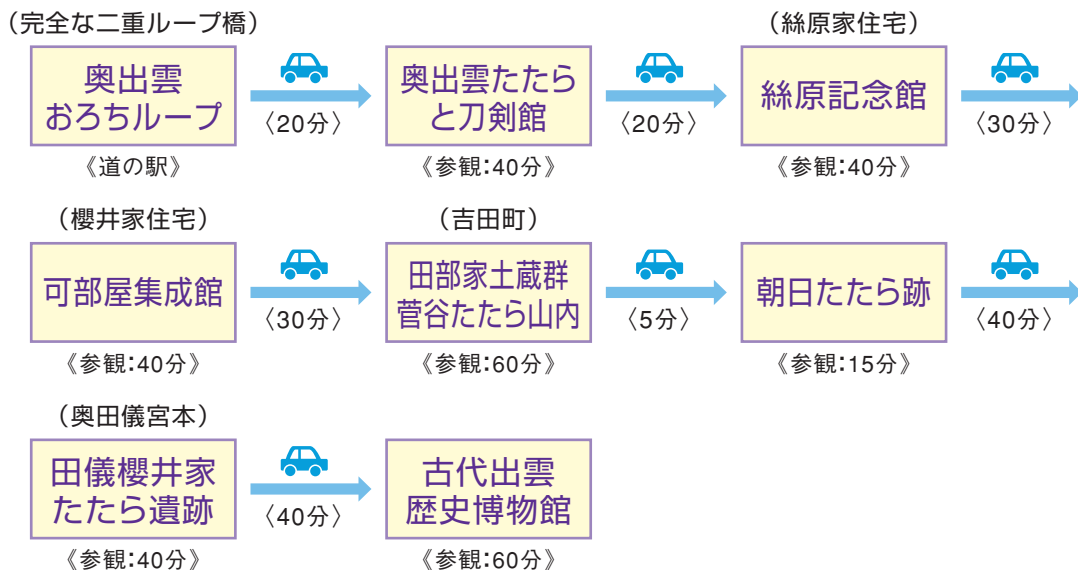
広域コース:「出雲王国の祭祀」を推理する!(出土地めぐり)



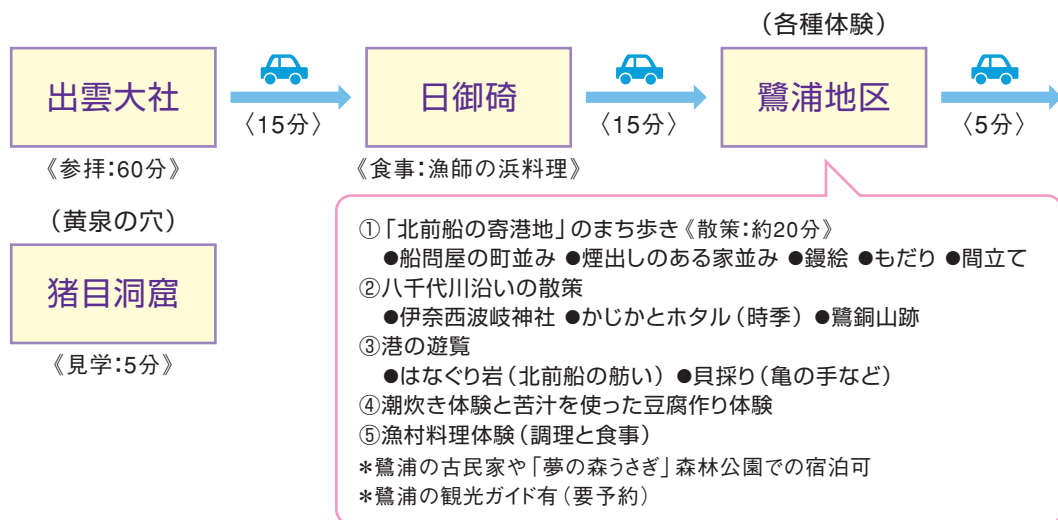
注) 時間はおおよその目安

注) 時間はおおよその目安

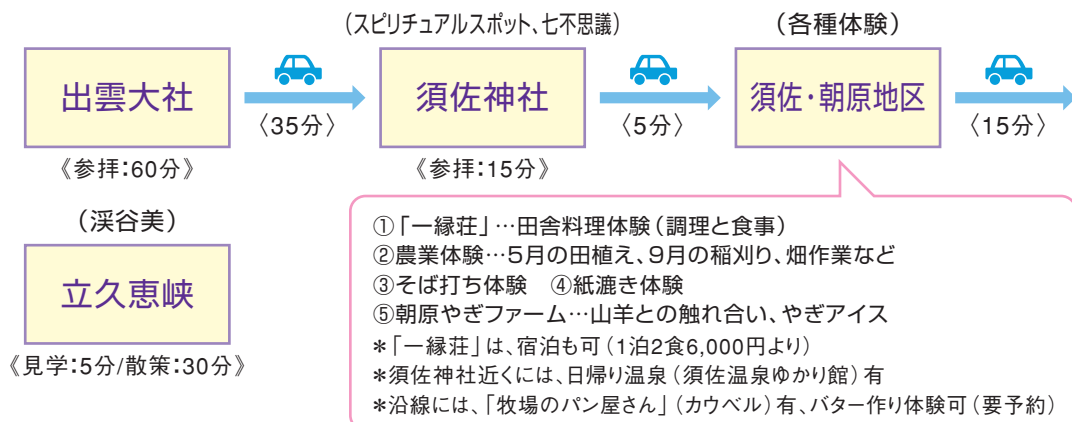
広域コース:「もののけ姫」の舞台を訪ねて(たたら道)



田舎ツーリズム【海】コース

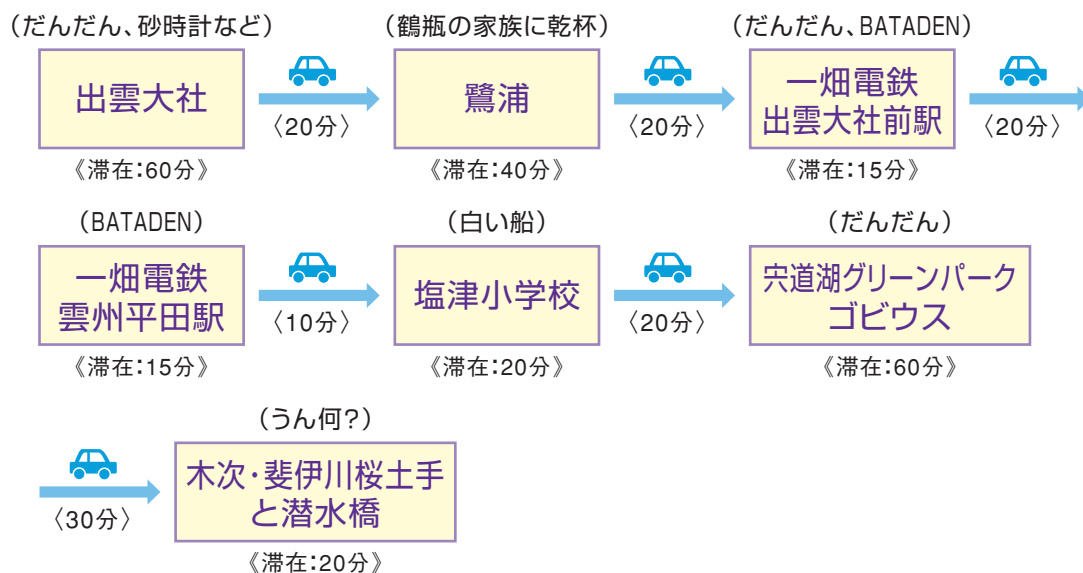


田舎ツーリズム【山】コース

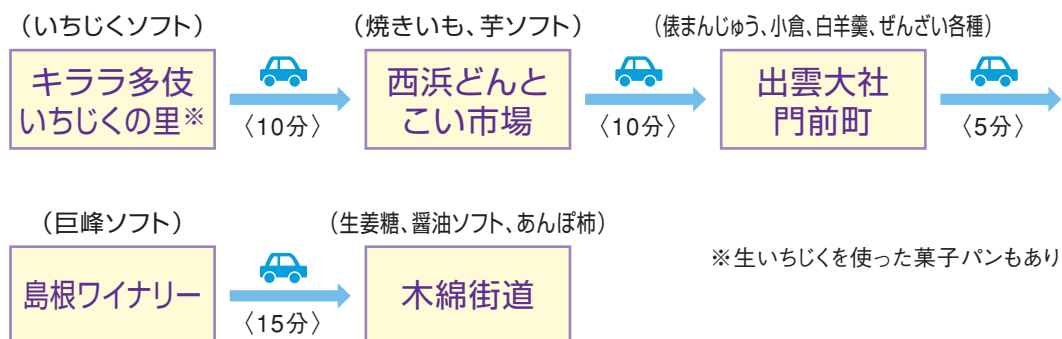


注) 時間はおおよその目安

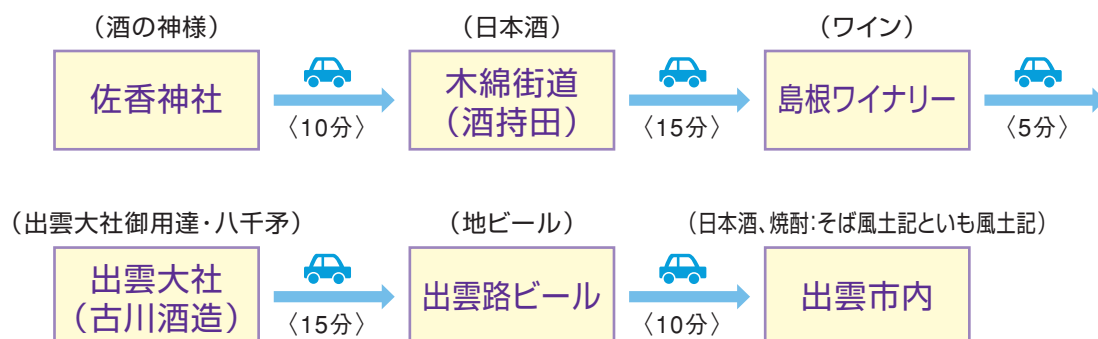
広域コース:出雲のロケ地めぐり



広域コース:スイーツめぐり



広域コース:「お酒の好きな人」にお勧め!



(5) 交通ネットワークの充実

a) 公共交通による利便性の高い周遊機能の整備

本市は、山陰の中核的な都市として、JR山陰本線により東は鳥取から京都、西は山口まで結ばれています。東京からは、新幹線と特急やくも、また寝台特急サンライズ出雲が走っています。空からのアクセスとしては、出雲空港があり、東京からは1日5便、大阪からは1日8便、福岡からは1日2便で結ばれています。さらに、東京、大阪、広島、福岡、神戸、岡山、京都、名古屋から高速バスが運行しています。

地域内交通としては、一畑電鉄があり、出雲大社と川跡をむすぶ出雲大社線と本市と松江市をむすぶ北松江線があります。一畑電車は、宍道湖北岸を東西に結ぶ公共交通機関であり、映画「BATADEN」として取り上げられるなど、移動機関のみならず観光資源としても注目をされています。

路線バスは、運営、料金、路線などについて様々な形態が混在しています。出雲大社線、日御碕線、田儀線や市内中心部を運行する市内循環線があり、また各エリアにおいては、平田生活バス、多伎循環バスなどが運行しています。

観光客の快適な移動のためには、初めて訪れる観光客にとっても分かりやすい交通案内が必要です。

①交通案内ツールの充実

本市の観光資源はその多様性、豊富さから広範囲に存在しています。しかし、それをつなぐ道路網、交通網は充実しているとはいえず、観光客にとっては複雑で分かりにくいものとなっています。

主要な交通拠点と観光資源を結ぶ鉄道、路線バスなどの観光交通機関の路線、主な区間の所要時間、料金、運行時間割を分かりやすく掲載する交通案内マップ作成、道の駅などでのデジタル映像や携帯電話を利用したリアルタイムの交通情報提供など交通案内ツールの充実が必要です。

②割引チケットの充実と交通結節点での利便性の向上

出雲の周遊観光においては、出雲路をめぐる電車・バスの3日間のフリーチケットに観光施設の割引特典がついた「縁結びパーフェクトチケット」(3,000円)、一畑電車1日乗り放題の「一畑電車フリー乗車券」(1,500円)など、周遊観光にお得な切符があります。さらにJRを含めたより利用しやすい設定の割引チケットの充実とそれを観光客に分かりやす



▲縁結びパーフェクトチケット

くPRすることが必要です。

また、公共交通機関を利用した観光の利便性の向上のためにはJRとバス、JRとタクシー、バスとタクシーなど交通機関を乗り次ぐ際の待ち時間短縮や料金割引などの利便性の向上が望まれます。

③二次交通の充実とJR出雲市駅の拠点機能の充実

航空機や高速バス、鉄道などで来訪する観光客の2次交通の充実について、繁忙期などの期間限定でのバス便の増便など、需要の把握に基づく検討を進めていきます。

また、JR出雲市駅は、公共交通を利用した観光の拠点であり、ここからのバス、タクシー、レンタカーなどを利用する際の利便性の向上や情報提供の充実など、JR出雲市駅の拠点機能の充実が望まれます。

④周遊時における携帯情報端末への情報配信の充実

本市を訪れて周遊する観光客への交通情報の配信においては、携帯電話などの携帯情報端末が重要な役割を担います。情報通信技術の進歩により、現地に着いてから携帯電話などで情報を得る旅行者が増えています。

快適な周遊を促すためには、本市のどこにおいても、旅行者がその場で情報が得られるよう携帯電話への電波の不感地帯を解消するなど、携帯情報端末への情報配信の充実が望まれます。



▲生活バス

b) 自動車旅行環境の整備

旅行での自家用車の利用率は、全国で46.5%、島根県では63.7%と最も利用度の高い交通となっています。本市においては、平成22年に市内の出雲インターチェンジまで山陰自動車道が延伸し、松江方面からの高速道路ネットワークができあがります。また、国道9号、国道431号のバイパス整備や域内幹線道路の整備が進められています。

また、通信型カーナビの開発の本格化、ETCカードの普及など車を取り巻く環境も変化してきており、ETC割引旅行商品など車旅行のパッケージツアー*も出てきています。

このように旅行市場の拡大に寄与する可能性を秘めた自動車旅行についての調査研究、情報提供や旅行商品開発などについての検討を進めます。

①交通サインの充実

本市への来訪は、近隣の岡山、広島、山口などから高速道、国道を使った自家用車利用での来訪や出雲空港からのレンタカーを利用する方法があります。初めて車で来訪する観光客にとっては、移動のための案内標識が大変重要な情報となります。観光客の視点からあらためて標識の現状を調査し、観光客にとって分かりやすい交通サインの充実を図ることが必要です。

また、案内標識は道路景観を形成する一部であることから、案内サインの素材、デザインの統一化など、景観に配慮した交通サインの整備が必要です。

②自動車旅行向けの情報発信の検討

自動車旅行の特徴は、移動の自由度にあり、その日のイベントや旬の味覚など興味をひかれる情報があれば、すぐにその場へ訪れることができるところにあります。例えば、渋滞情報とともにその渋滞が解消するまでに立ち寄ることができる観光情報を流すことにより、さらなる周遊観光が生まれることも想定されます。そのためには、本市のどこにおいても、旅行者がその場で情報が得られるよう携帯電話への電波の不感地帯を解消するなど、携帯情報端末への情報配信の充実が望まれます。また、自動車旅行への情報提供においては、高速道路のサービスエリア、パーキングエリア、道の駅なども有効な情報提供の場といえます。

自動車旅行は大きな市場性があり、これらの視点を加味した情報発信についての検討も必要です。

* パッケージツアー：旅行会社が企画して行う交通運賃や宿泊費など一切込みの旅行。バックツアー。

③自動車旅行向けの商品開発の検討

カーナビ、ETCカードの普及などにより、高速道路会社や旅行会社による高速道路代の割引と宿泊がセットになったETC割引旅行商品が各地で販売されるようになっていきます。

従来のJR、航空機と観光施設、宿泊施設をパッケージにした旅行商品に加えて、新たな形態である自動車旅行のパッケージ商品について、高速道路会社や宿泊施設、旅行会社などとの連携による開発も望めます。

④交通難所の解消促進

快適な自動車旅行を促すためには、山間道などの狭い道の拡幅や急カーブなどの解消など、初めて訪れる観光客にとっても利用しやすい道路の整備も求められます。

海岸線や森林・里山における拠点整備や観光ルート設定ともに、主要地方道大社日御碕線や一般県道大社立久恵線など交通難所の解消促進が望めます。

(6) 広域観光の推進

a) 広域観光圏の整備

現在、国土交通省では国内外の観光客が2泊3日以上滞在できるエリアの形成を目指し、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを推進することで、地域の幅広い産業の活性化や、交流人口の拡大による地域の発展を図るための広域観光圏整備を進めていますが、本市においても広域観光の視点からの魅力の創出が必要です。

神話の国縁結び観光協会や県域をまたがる山陰文化観光圏など既存の広域組織において、その連携を強めるとともに本市の役割・立場を明確にし、その役割を果たすことにより広域観光圏の魅力の充実を進めます。

①広域観光における出雲市の役割の明確化

本市は、城下町の松江と世界遺産の石見銀山の間、中央に位置しています。また、島根県と鳥取県は山陰文化観光圏として県域をまたがる広域観光を推進していますが、これは、古代の出雲国のあった範囲ともいえ、出雲大社があり、国引き神話、国譲り神話の地である本市は、その中心のかつ象徴的なエリアと言えます。本市はこの広域観光圏の広告塔ともいえる役割を担っています。

広域観光における本市の役割の明確化、関係者との共通認識化を図ります。

②広域観光の推進

神話の国縁結び観光協会、山陰文化観光圏を強化し、広域観光ルートの設定やそれぞれの観光地で広域観光情報を提供するなど、広域観光圏による面的な観光魅力の提供を進めます。

また、広域観光圏の玄関口として、交通機関や宿泊施設などの情報提供の充実による広域観光を促進するとともに、自らも滞在機能の充実を図ることにより、広域圏全体での滞在力向上に寄与します。

b) 外国人観光客の誘致への対応

我が国では、2010年に外国人観光客数を1,000万人とするビジット・ジャパン・キャンペーン事業が2003年より展開されており、2003年には521万人であった外国人観光客が2007年には835万人と大幅に増加しています。国別にみると、韓国が最も多く260万人、次いで台湾138万人、中国94万人となっています。

島根県への外国人観光客の来訪をみると、平成19年の外国人宿泊客数が、32,710人となっており、そのうち本市での宿泊が1,720人と少ないのが現状です。

したがって、まずは外国人観光客のニーズ分析をしっかりと行い、その分析に基づき計画的な外国人観光客の誘致を検討していきます。

①外国人観光客ニーズ分析の実施

本市においては、外国人観光客の増加は今のところそれほど顕著には現れていませんが、日本の古都として外国人観光客からも注目を浴びている奈良・京都よりも古い時代の日本のルーツともいえる出雲は、伊勢と同様にそのポテンシャル(可能性)は高く、今後の取り組みにより増加が見込まれます。

まずは、出雲のどの観光資源がどこの国の観光客にとって魅力的であるのかという調査を行うなど、外国人観光客のニーズの研究を進めます。

②多言語による観光情報提供の推進

外国人観光客の誘致対策として、外国人観光客に出雲の魅力をアピールするために観光パンフレットや観光マップ、観光ホームページの多言語化が必要です。

本市においても、上記のニーズや事例の研究に基づき、多言語による観光情報提供の検討を進めます。



▲出雲市観光パンフレット外国語版

(7) 出雲ブランドの確立

a) 食のブランド開発

観光地においては、多くの情報が氾濫するなかで、ブランドを手にすることは観光振興の大きなポイントとなります。平成18年4月に地域ブランドの保護、振興のために導入された「地域団体商標制度」は今までに800件以上が出願され、平成20年3月末までに371件が登録されています。島根県内では「石州瓦」「しまね和牛」が登録されています。

その中でも食のブランドは、観光客をひきつける大きな魅力のひとつであり、本市における特産品などの資源の掘り起こしから出雲オリジナル料理の創出など、食のブランド開発が必要です。

①出雲の食文化、特産品の紹介

本市には、出雲そば以外にも、発祥の地とのいわれのある出雲ぜんざい、出雲国風土記の時代から名産とされる十六島のり、しじみ、あご野焼き、島根ブドウ、柿、多伎いちじく、西浜いもなどの食文化、特産品があります。また、その他にも新鮮な農林水産物があり、多くの食材の地産地消が可能です。

これらの食文化、特産品を全国に向けて発信するとともに、安全・安心、新鮮な食のあるまちとしてのPRを進めます。

②地域食材の活用とPR【再掲】

本市は、海の幸、山の幸ともに豊富であり、出雲の食は、その多くが地域の食材でまかなわれています。安全な食の提供ということも魅力の一つです。さらに地域食材を積極的に活用しPRをすることにより出雲ならではの安全な食ブランドの確立が必要です。

③食を楽しむ場づくり

食の魅力は、出雲ならではの料理そのものとあわせて、どこで食べるかということも重要な要素となります。

海辺や川沿い、里山などの自然や歴史的な建物などを活用した食事を楽しむ「雰囲気」の提供など食を楽しむ環境づくりも望まれます。



▲出雲ブランド“食の祭典”

b) 神話ブランドの開発

本市は、古事記、日本書紀及び出雲国風土記に登場する出雲神話の舞台としてイメージされていますが、出雲ブランドを確立し世界に発信していくためには、このイメージをより強く打ち出し、神話ブランドとして確立する必要があります。

古代出雲歴史博物館における神話伝承のプログラムを活用した神話伝承の基準の作成やデータベースの構築、パンフレット、ガイドブック、ホームページなどあらゆる媒体を活用した神話伝承の手段の充実、さらには、出雲神話学講座の開設や神話伝承ガイドの養成などが必要です。

c) 温泉ブランドの開発

温泉浴は、観光旅行に欠かせない要素の一つです。魅力的な温泉があることは、それ自体が滞在の動機付けにつながります。

既存の温泉や道の駅大社ご縁広場・吉兆館わきに湧出する温泉、さらには、日帰り温泉施設の活用による温泉ブランドの開発が必要です。

d) 出雲全体での地域ブランド化の推進

観光における地域ブランド化は、ロゴマークの作成や商品に地域名をつけるだけにとどまらず、地域全体のイメージ形成まで含まれます。

「神話・縁結び」「歴史・文化」「自然環境」「農林水産物」「温泉」「芸術・芸能」「サービス・おもてなし」「生活文化」など様々な地域資源の総合体として、出雲全体での地域ブランド化の推進が必要です。

本市の地域資源について、絶えず掘り起こし（発掘と再評価）を行うとともに、多様な資源を活用し、他の地域との差別化、観光客への周知を図り、観光客の満足度を高めるために、イベント創出、特産品開発、旅行商品化、人材育成など出雲全体での地域ブランド化を推進します。

(8) 情報編集・発信の充実**a) 観光情報編集体制づくり**

出雲の知名度をさらに高め、観光客の来訪を促すためには、出雲の観光情報、ブランド情報を全国に的確に発信する必要があります。情報コミュニケーション技術の著しい進歩に対応した観光情報のデータベース化と様々なメディアを活用した観光情報提供ツールの開発・充実を図るとともに、あらゆる人にわかりやすい観光情報の提供が必要です。

また、旅の個人化やテーマ重視化などにより、観光客の求める情報は多様化し、かつ、住んでいる人のお勧めや実際に訪れた人の感想などの評価情報も求められています。このニーズに対応するためには、従来の行政や民間などの単独での情報提供には限界があり、市民、行政、民間企業などが連携した情報提供の体制づくりが必要です。

①観光情報データベースの充実

観光客が求める情報は、初めて訪れる人と何度も訪れているリピーターの人ではその求める情報は異なります。初めての人には分かりやすさが、リピーターの方にはより詳しくさが求められます。

また観光情報には、単なる観光資源の内容情報だけでなく、市民や体験者の口コミ的な評価情報も求められますし、その日のイベント情報や季節の味覚情報など旬な情報も求められます。

これらの多様なニーズに対応するために、既存の観光情報のデータベースの充実が必要です。

②観光情報提供ツールの開発・充実

旅に出る前に得る情報媒体としては、インターネットサイトの利用が増えています。

インターネット上には多くの情報が氾濫しており、なかなか欲しい情報までたどりつけないのが現状です。そのため、地域情報を一元的にまとめたワンストップで欲しい情報が得られる地域ポータルサイト*の開設が必要です。

旅に出て、実際に観光地をおとずれた際の情報提供媒体としては、既存の観光マップやパンフレットなどの携帯性の向上やQRコード*やマップコード*の導入などさらなる利便性の向上が必要です。また、今後さらなる利用の増加が予想される携帯電話やPDA*などの携帯情報端末からの情報提供が必要です。

③観光情報提供体制の整備

多様化する観光情報ニーズに対応するためには、市民、観光関連団体や関連事業者、及び行政の連携強化や中間的な位置でコーディネート*する新たな組織づくりなど、観光情報を迅速に収集・加工・発信する情報編集体制の確立が必要となります。

-
- * ポータルサイト：インターネットの入り口または玄関口となるウェブサイト。検索エンジンやリンク集を中心にニュースなどの情報を提供する。
 - * QRコード：小さな正方形の点を縦横同じ数だけ並べたマトリックス型2次元コード。バーコードよりも大量の情報を正確に記録できる。携帯電話のアドレス読み取り機能などに採用されている。
 - * マップコード：位置情報を示した8～10桁の数字からなるコード体系。緯度経度情報よりも文字数が少なく、カーナビなどの位置情報を入力する機器に用いられる。
 - * PDA：Personal Digital Assistantの略。手のひらに収まるくらいのサイズの、個人用の携帯情報端末。パソコンの持つ機能のうち、スケジュール管理や住所録機能、メモ機能などを備えている。
 - * コーディネイト：各部を調整し、全体をまとめること

b) イベントによる誘客促進

イベントの開催は、観光客誘致に一定の効果をもたらし、市民の楽しみを創出します。また、オフシーズンにイベントを開催することにより、観光の通年化を図ることができます。

このため、既存イベントの充実や新規イベントの創出など戦略的なイベントの展開が必要です。

また、コンベンション*や大きなイベントの誘致は、多くの来訪者と地域経済への波及効果が見込まれます。既存施設などを最大限に活用するなど積極的なコンベンションの誘致を進めます。

①既存イベントの充実・支援

出雲全日本大学選抜駅伝競走などのイベントや市民が大切に守り育ててきたイベントなどの充実、支援を検討します。また、オフシーズンにおけるイベントの開催など、より計画的なイベント実施を検討します。

②新たなイベントの創出・支援

イベントは、来訪の1つの魅力となります。新たな出雲市のイメージ形成や賑わいづくりに向けて、市民みずからが楽しめるイベントや市民発意のイベント、市民と観光客の触れ合いを生み出すイベントなどの創出・支援を検討します。

③コンベンション・イベントの誘致

市内の既存施設を活用し、コンベンションやイベントの積極的な誘致を検討します。また、島根県や広域観光圏などと連動した全国的なコンベンションやイベントの誘致についてもあわせて検討を進めます。



▲出雲全日本大学駅伝競走

* コンベンション：大会、集会。博覧会や見本市などの大きな催し。

c) 情報の発信、誘致・宣伝活動の充実

本市への観光客の増加や観光客の滞在時間の増加のためには、本市の魅力に関する様々な情報を的確に市場に届けるとともに、来訪のための交通情報や滞在のための宿泊情報、周遊のための観光施設、観光ルート、イベント情報など具体的な観光情報を誘致圏に対し積極的に発信していく必要があります。

①情報の発信、パブリシティ*の充実

本市への誘客促進のためには、どこの誰に対し何の魅力をいつどうやって伝えるかということを細かく分析した上での着地側からの情報発信が必要です。

また、観光の魅力に関する情報とともに、来訪や周遊の手段とそのための時間やコストなどの旅行や移動を支援する情報を、観光パンフレットや観光情報サイトなどの情報提供ツールにより、観光客に対してわかりやすく伝える必要があります。

また、出雲大社周辺やJR出雲市駅、出雲空港、道の駅、自動車専用道のサービスエリア、パーキングエリア、コンビニエンスストア、ガソリンスタンドなど人が多く立ち寄る場所での積極的な情報発信が必要です。

②誘致・宣伝活動の充実

観光客の誘致圏である首都圏や関西圏及び近隣県へ対し、行政、市民、観光関係団体、観光関連事業者の連携や、さらには島根県や広域観光圏と連動した、物産展をはじめとする多様な誘客・宣伝活動の充実が必要です。

また、本市はNHKの連続ドラマ「だんだん」や映画「白い船」「BATADEN」のロケ地となっています。テレビ、映画のロケ地となることの宣伝効果、誘客効果は大きく、今後とも積極的なロケ地誘致が必要です。



▲神話の夢舞台出雲展（東京都）



▲アンテナショップ（広島県）

* パブリシティ：情報を積極的に報道機関に提供し、マスメディアで報道されるように働きかける広報活動。

(9) 事業評価・検証・推進体制の確立**a) 観光基礎調査の実施**

少子高齢化の進展や環境問題への関心の高まり、石油価格の高騰による移動コストの増大など観光を取り巻く環境は絶えず変化しています。それに応じ、観光客の求めるものも絶えず変化しています。的確な施策を展開していくためには、絶えず、市場調査や地域資源・事業所調査を行うことにより、観光のニーズ（観光客の求めるもの）とシーズ（観光資源やサービスなどの素材）を把握することが必要です。そのデータをもとに、観光施策実施の効果についても測定することが必要です。

①市場調査の実施

島根県により毎年、観光入込客数、宿泊客数、観光消費額などの調査が行われており、本市の主要観光施設の入込客数及び宿泊客数は毎年発表されています。しかし、その数字はそれぞれの観光施設の報告によっていることから、各施設における集計精度の向上が望まれます。特に、入場券での把握ができない地点については推計による部分が大きく、カウント調査の充実やカウント設備の導入など、的確な数字の把握が必要です。

また、観光客の行動調査については、島根県により、出雲大社、日御碕、キララ多伎で実施されていることから、その調査と連動してより本市にとって詳しいデータを収集することや宿泊施設に協力を依頼し宿泊者の行動調査や満足度調査を実施するなどの手法の検討が必要です。

②地域資源・事業所調査の実施

観光資源は、光のあて方、切り口によりその価値も変化します。また、地域の小さな地道な活動があらたな観光資源として花開くこともあります。したがって、観光を取り巻く環境の変化に応じて、絶えず地域資源の掘り起こしを行うことが必要です。

また、観光はあらゆる産業に関連することから、絶えず、関連事業者の取り組みや市民活動についての情報を収集し、新たなビジネスにつなげていくことが必要です。

③事業効果測定の実施

観光振興施策を持続的に展開していくためには、関係者全員が観光振興の意義と観光振興施策の実施効果を把握し、共通認識として持っておく必要があります。そのため、上記①②の調査データをもとに、絶えず事業効果測定を実施するなど体制づくりを進めます。

b) 観光推進のためのネットワークづくり

観光振興は、観光産業のみならず、農林水産業や製造業など多くの産業に関連することから、観光施策の実施にあたっては、各関連産業との横断的な連携が必要です。

観光施策の実施主体としては、市民、行政、観光関係団体、観光関連事業者、民間関連事業者などがあり、これらの協働により観光事業の推進が成り立ちます。

より効果的で現実的な観光施策を実施するため、市民、行政、観光関係団体、観光関連事業者、民間関連事業者の連携を強化していくことが必要です。

本市の観光振興は、いままでも「21世紀出雲神話観光大国の創造」を基本方針に、行政・市民・観光事業者等の協働のもと、多様な施策を展開してきました。

今後、本計画をもとにさらに強力に観光事業を推進していくために、市民、行政、観光関係団体、観光関連事業者、民間関連事業者の情報交流、人材交流の場を積極的に設けるなどネットワークの強化が必要です。

c) センター機能を持った観光推進組織の創出

今後の観光事業を円滑かつ効果的に進めるためには、それぞれの主体の得意分野をつなげることが必要です。行政や観光協会が主体となって行ってきた観光情報サイトに、住民の口コミ情報の掲載や民間事業者によるビジネスベースの展開などを加えることにより、利用者へ効果的に伝達され、利用者の利便性が増すこととなります。

今後の観光事業の推進にあたっては、例えば行政などの1つの主体が主導的に進めるツリー型の連携ではなく、それぞれにとって中立的な組織がそれぞれの活動をサポートし協働をコーディネートするようなネットワーク型の連携が望まれることから、その中立的な観光推進マネジメント*組織の立ち上げを検討します。

* マネジメント：観光施策の具体的な展開や事業の推進を管理すること。

(10) ホスピタリティ(おもてなしの心)の向上**a) 出雲学講座・学習、出雲まちづくり講座の実施**

観光客の求めるサービスに対応し、心地よい観光を促すためには、全市民が地域を愛しおもてなしの心を持つ必要があります。

市民が出雲のことを知る場としての出雲学講座、まちづくりに関する知識を得て、まちづくりへの参画を促す場としての出雲まちづくり講座の実施が必要です。

① 出雲学講座・学習機会の創出

地域のホスピタリティを向上するには、まず住んでいる人が住んでいる地域を知り、地域に愛着を持つことが重要です。また、観光客にとっては魅力的な資源も、住んでいる市民にとっては当たり前のものとして、観光資源としては埋もれていることもあります。

出雲の人があらためて出雲について学ぶ出雲学講座や子どもたちが出雲のことを学習や体験する機会の創出が必要です。

② 出雲まちづくり講座・まちづくり参画機会の創出

地域のホスピタリティの向上のためのもう一つの側面として、上記により学んだ知識を発信する場や実際に観光によるまちづくりに参画する機会を持つことが重要です。

他地域の先進事例の紹介や先進地視察など観光によるまちづくりを学ぶ機会やフィールドワーク*による地域資源発掘やワークショップ*など市民が実際に参画する機会の創出が必要です。

* フィールドワーク：野外調査。野外など現地での実態に即した調査・研究。

* ワークショップ：市民などの参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究会。市民などが自主的な活動として行う講習会。

b) 出雲神話伝承・古代出雲ガイド、 セールスパーソン(セールス人材)の充実・育成

出雲を訪れた観光客にご縁を感じていただくには、人と人との交流、市民と観光客との交流が欠かせません。

そのためには、出雲の神話や歴史・文化を伝える観光ガイドや自然環境を紹介するインタープリター*の充実・育成が必要です。

また、出雲を積極的にPRし、売り出していくセールスパーソンの充実・育成も必要です。

①出雲観光ガイドの育成・充実

観光ガイドの研修会などにより、既存の観光ボランティアガイドの充実に図るとともに、出雲学講座やまちづくり講座の受講者などを通じ、新たなガイドの育成が必要です。

また、あわせて観光ガイド必携書として、出雲の神話や歴史・文化、自然など出雲のすべてが分かり、ガイドの心得やおもてなしの基本情報を掲載した出雲おもてなしガイドブックづくりが必要です。

②出雲観光セールスパーソン、観光プロデューサーの育成・充実

出雲学講座、出雲まちづくり講座などへの積極的な参加者や地域で活動している団体などを通じ、それぞれの情報交流の場の創出などにより、出雲の情報を積極的に発信し、売り出していくセールスパーソンの育成や、さらには、出雲の観光を総合的にプロデュースする人材の育成が必要です。

また、外部の人材活用として、出雲地域外にすむ出雲出身者やゆかりのある人をネットワークすることや旅行会社や地域プランナー*経験者をプロデューサー*として招聘することも検討が必要です。



▲出雲文化観光学院

* インタープリター：自然や歴史を旅行者に解説する人。

* 地域プランナー：地域振興に関する計画策定、指導、支援などを行う人。

* プロデューサー：事業や業務全体を統括する権限をもった責任者。

c) 観光関連事業者の接遇力の向上

観光客にとっては、宿泊施設や食事施設や移動空間のなかで、その内容とともに、いかに心地よく過ごせるかということも重要な要素です。観光客と最初に接する宿泊事業者、飲食事業者、交通事業者などのおもてなしは、観光地としての印象に大きく影響を与え、良い印象ならばリピーターにもつながります。

出雲市観光の質をさらに向上するためには、観光受入の専門家として、観光関連事業者のさらなる接遇力の向上が必要です。

ホテル・旅館などの宿泊業、郷土料理店などの飲食業、バス・タクシー等の交通事業者は、観光客受入の最前線に立つプロフェッショナルです。観光関連事業者の観光客へのおもてなしは、観光客にとっては当然のサービスとして受け止められます。

出雲の観光受入の牽引役として、たえず接遇研修を実施するなど、おもてなしや接遇マナーのさらなる向上が必要です。

また、観光客の求める情報やサービスは多様化し、より専門的になってきています。これらのニーズに対応するために、たえず関係者間での勉強会や情報交換会を実施するなど、出雲に関する様々な知識の共有化や情報発信力のさらなる向上も必要です。

第4章

重点施策（リーディングプロジェクト）

1. 重点施策設定の基本的な考え方

前章の計画振興施策の中から、今後、早期かつ重点的に取り組むべき施策を束ね、重点施策・リーディングプロジェクトとして掲げます。

重点施策は、前章の10の施策を横断する総合的なプロジェクトとして設定します。

本市の観光においては、出雲ブランドを構築し、強力にアピールすることにより、観光による経済波及をより効果的なものとするのが最も重要です。

そこで、以下の3つをリーディングプロジェクトとして掲げます。

リーディング
プロジェクト

1

「ご縁の発信! つたえて出雲プロジェクト」

リーディング
プロジェクト

2

「ご縁を味わう! とまっても出雲プロジェクト」

リーディング
プロジェクト

3

「ご縁を育む! いつでも出雲プロジェクト」

■重点施策の設定

施策 リーディング プロジェクト	出雲大社を中心とする滞在拠点の整備	エリアごとの滞在拠点の整備	滞在促進メニューの開発	ストーリー性のある周遊ルートの創出	交通ネットワークの充実	広域観光の推進	出雲ブランドの確立	情報編集・発信の充実	事業評価・検証・推進体制の確立	ホスピタリティ(おもてなしの心)の向上
ご縁の発信! つたえて出雲プロジェクト	・	・	・	・	・	・	●	●	・	●
ご縁を味わう! とまっても出雲プロジェクト	●	●	●	●	●	●	●	・	・	●
ご縁を育む! いつでも出雲プロジェクト	・	・	・	・	・	●	・	・	●	●

2. 重点施策

リーディング プロジェクト

1

「ご縁の発信！ つたえて出雲プロジェクト」

出雲には、日本のルーツとして、住民自らが知り、全国に伝えていくべきものとして、出雲神話、古代出雲の歴史・文化があります。

これらの資源の発信を、市民、行政、観光関連団体、観光関連事業者、民間関連事業者の協働で進めます。

■取り組み内容

項 目	取り組み内容
資源の発掘とデータベース化	○市民ワークショップによる出雲神話、歴史・文科の掘り起こし ○出雲神話、歴史・文化に関する資料編纂 ○出雲神話、歴史・文化に関する資料、映像のデータベース化
施設的环境整備	○古代出雲歴史博物館の活用、出雲弥生の森博物館の整備・活用 ○古代出雲歴史博物館など既存の博物館、資料館のネットワークによる体験プログラムの充実 ○出雲神話・古代出雲に関する宿泊プランづくり ○出雲神話、歴史・文化を中心とした旅行商品の造成
情報発信	○出雲神話・古代出雲ポータルサイトの開設 ○車利用者むけガイドブック、ガイドマップの充実 ○携帯電話などの携帯情報端末への情報発信の充実 ○出雲神話・古代出雲に関するイベントづくりおよび支援 ○首都圏、関西圏、近隣県へのプロモーションの実施
ガイド育成	○出雲神話・古代出雲講座や体験学習の実施 ○出雲神話・古代出雲ガイドの育成 ○先進地事例研究、視察、交流の実施

リーディング
プロジェクト

2

「ご縁を味わう! とまって出雲プロジェクト」

本市の観光の経済波及をより効果的なものとするためには、本市での滞在時間、宿泊を増やしていく必要があります。

滞在の魅力づくり、宿泊の魅力づくりを、市民、行政、観光関連団体、観光関連事業者、民間関連事業者の協働で進めます。

■取り組み内容

項 目	取り組み内容
滞在・滞在 時間の増加	○出雲阿国座（仮称）の整備 ○神門通りのまちあるき環境の充実 ○出雲そばブランド戦略（特徴の紹介、食べ歩きマップの作成、食べ比べイベントの実施） ○新鮮で安全な地域食材の活用とPR ○テーマ別の周遊ルートの設定とPR ○ぶどう、多伎いちじく、西浜イモ、海産物など地域の特産物による土産品の開発
宿泊魅力の向上	○早朝の出雲大社参拝などの宿泊プランの創出 ○歴史的建造物などのライトアップ ○神社仏閣など夜の神秘的雰囲気の中での野外コンサートの実施 ○市街地での夜の食べ歩き、飲み歩きマップの充実 ○夕日のビューポイントの設定と夕日をたのしむプランの創出 ○農村、漁村での宿泊体験プランの創出 ○宿泊施設などでの接客研修実施などホスピタリティの向上
プロモーション	○宿泊者の観光行動調査、満足度調査 ○出雲～松江、出雲～石見銀山の広域観光ルートにおける滞在・宿泊拠点としてのPR ○広域観光圏における滞在・宿泊拠点としてのPR

リーディング
プロジェクト

3

「ご縁を育む! いつでも出雲プロジェクト」

本市の観光を単なるブーム、一過性のものとしなないためには、事業効果をたえず把握し、全市民がおもてなしの心をもって、観光客と交流することが必要です。

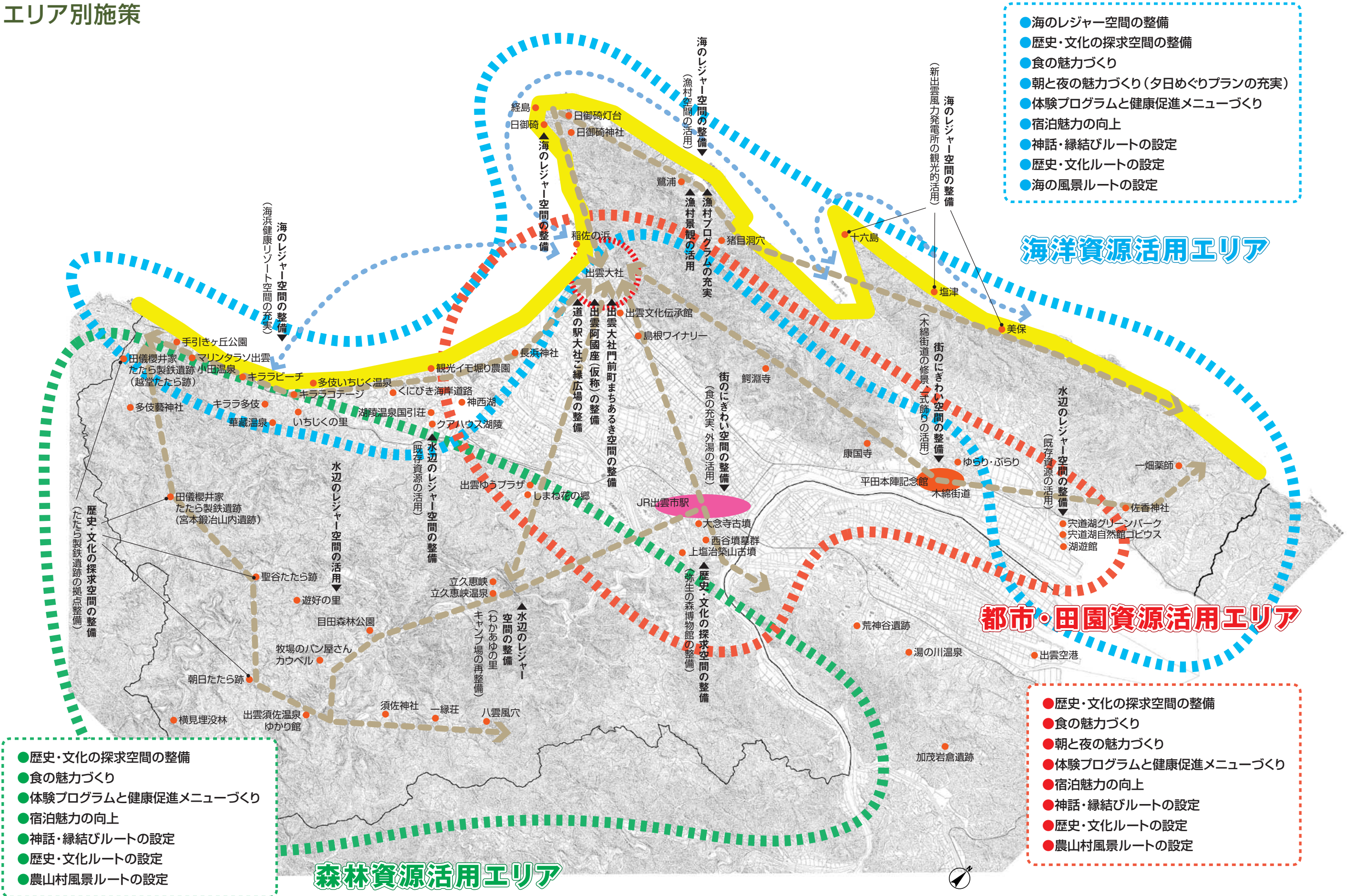
おもてなしのある観光交流づくりを、市民、行政、観光関連団体、観光関連事業者、民間関連事業者の協働で進めます。

■取り組み内容

項 目	取り組み内容
事業効果測定と 情報共有	○出雲大社、日御碕、キララ多伎など主要観光地や宿泊施設での観光客へのアンケート実施による観光行動の把握 ○観光施設、宿泊施設への利用者数調査の実施 ○各種事業所への産業流通構造調査の実施 ○観光による経済波及効果の把握 ○関係者による情報共有化（連絡会議の実施、情報共有サイトの構築）
観光客の声の 把握と改善	○出雲大社、日御碕、キララ多伎など主要観光地や宿泊施設での観光客へのアンケート実施による満足度、不満な点の把握 ○ホームページ上で観光客の声の把握 ○観光客アンケート結果、観光客の声の反映による観光施策やサービスの改善
おもてなしの心の 醸成	○出雲観光まちづくり講座の実施による市民の参画機会の創出 ○飲食、宿泊、交通関連事業者の接遇研修の実施 ○市民ボランティアガイドやイベント等でのボランティアスタッフの養成 ○出雲観光ガイドの養成・充実 ○出雲観光セールスパーソンの育成・充実 ○観光プロデューサーの招聘、育成

第5章 エリア別施策

エリア別施策



第6章

計画の進行管理

1. 施策推進体制

(1) センター機能を持った推進組織の必要性

地域全体が一体となり施策をより効率よく推進していくためには、全体をとりまとめ、組織の連携や協働の間に立って調整する機能、つまりはセンター機能を持った推進組織が必要となります。

このセンター組織において、本計画の進行を統括管理し、施策に応じて既存の組織体では担えないリーダー役、サポート役、調整役などの役割を果たすことで施策を円滑に進めることが可能となります。

特に、出雲の各種観光関連資源や観光関連情報を収集、編集及び発信をこの組織に行うことにより、観光情報の一元化を図るとともに、観光客の必要としている信頼性があり、体験談などの評価情報があり、本日のイベントや旬の味覚など新鮮な情報を提供することが可能となります。例えば、行政主体の情報提供は、信頼性があるものの情報の差別化を図るのが難しい面がありますし、民間主体であれば、収集コストがかかるとともに、企業の広告的要素が加味されることから、情報の偏りが生じる場合があります。センター組織がその中立的な立場で間に入り、両方の利点を引き出す役目を担います。

このセンター組織により、各主体の連携強化が図られ、より効果的な施策を展開するための推進体制を築くことが望まれます。

(2) 施策の取り組み時期と施策推進の役割分担

本計画の目標年次は、10カ年計画であることから平成30年度(2018)となります。観光振興施策の実施にあたっては、絶えず変化する観光をとりまく環境に対応すべく、できる限り早期かつ計画的に着手することが重要となります。

したがって、観光関連計画、関連施策および観光関係機関との連携を図りながら、各施策の取り組み時期と役割分担を設定します。

① 施策の取り組み時期

取り組み時期の設定にあたっては、施策実現効果の高さ、実現の容易性、実現にかかる期間等を考慮し、短期(3年以内)、中期(5年以内)、長期(将来的な構想)の3段階に分けて設定します。

②施策推進の役割分担

それぞれの観光施策の推進にあたって、特に中心的な活動を行う推進主体を設定します。

ただし、実際に事業に推進するにあたっては、国、島根県の施策との連携や、出雲市をはじめ、観光関係団体、観光関連事業者、民間関連事業者、そして、市民および、市民によるまちづくり活動などのNPO団体、ボランティア団体など協働が必要となります。

●行政の役割

関連情報の積極的な収集とともに、観光動向にあわせた施策実施の環境整備として、市民やNPO団体、事業者の積極的な取り組みを支援するとともに、各主体の連携・協働体制の促進・調整を行います。

●観光関係団体

観光・農商工業などのノウハウをいかし、民間主導による観光への取り組みを支援していくとともに、施策実施の牽引役として役割が期待されます。

また、経済波及効果の大きい観光に関連する産業のメリットを観光事業者以外にも啓発することにより、いままで以上に観光に取り組む主体を拡大させることも期待されます。

●観光関連事業者、民間関連事業者

プロフェッショナルとして、観光客受け入れの最前線にたつ観光関連事業者は、観光振興の主役となります。観光客に対しておもてなしの心を体現していくこと、積極的な取り組みにより民間主導による観光振興の担い手となることが期待されます。

また、観光の関わる産業は幅広く、かつ、観光による付加価値化の見込まれる産業もあり、民間関連事業者の積極的な観光関連事業への参画も期待されます。

●市民・NPO団体など

個々の趣味嗜好により多様化している現在の観光では、地域をよく知る住民や地域に根ざした団体などが観光素材の再発掘やメニュー化において、アイデアを出し、また主体的な活動を行っていくことが重要です。

また、おもてなしの心を推進していくためには、観光関連団体や民間事業者の取り組みだけでは十分でなく、市民が日常的におもてなしの心を発揮し、積極的に観光客と交流することが望まれます。

さらに、これら活動主体を補完し、連携・協働の体制を強化し、事業を円滑にする役割をになう組織として、設立が期待されるセンター組織があります。

2. 施策推進スケジュール

施 策	プロジェクト	事 業 内 容
(1) 出雲大社を中心とする 滞在拠点の整備	a) 出雲大社門前町 まちあるき空間の整備	○古代出雲歴史博物館の玄関機能の強化 ○空き店舗の活用 ○休憩処の整備 ○ギャラリーの整備 ○案内所の整備 ○歩道整備 ○案内標識の整備 ○駐車場の有効活用
	b) 出雲阿国座（仮称）の整備	○施設連携による集客力の向上 ○芸術文化・伝統芸能拠点の整備 ○市民の伝統芸能の活動拠点の整備
	c) 道の駅大社ご縁広場の整備	○道の駅機能の充実 ○足湯の整備 ○地域特産品販売機能の整備 ○地域情報発信機能の充実
(2) エリアごとの 滞在拠点の整備	a) 海のレジャー空間の整備	多伎地域：○マリンスポーツ・観光・レジャー拠点の整備 ○海浜リゾート機能の充実 ○健康プログラムの充実 日御碕地区：○タ日スポットとしての整備 ○食事スポットの充実 ○海上・海中散策ポイントの充実 鵜飼地区：○漁村空間の活用 ○空き家の活用 ○体験、学習機能の充実 平田地域：○風力発電所の活用 ○風車公園の活用
	b) 歴史・文化の探求空間の整備	○弥生の森博物館の整備 ○たたら製鉄遺跡の拠点整備 ○神社仏閣の観光活用 ○歴史・文化データベースの構築 ○ガイドの養成
	c) 水辺のレジャー空間の整備	宍道湖：○既存施設の活用 ○学習・体験メニューの充実 神西湖：○既存施設の活用 ○飲食メニューの充実 神戸川：○立久恵峡の再整備 ○飲食・滞在メニューの充実 ○親水空間の充実
	d) 森林・里山の散策空間の整備	○既存施設の活用 ○癒しの空間の充実 ○自然環境の体験・学習メニューの充実 ○農業体験・農家体験プログラムの充実
	e) 街のにぎわい空間の整備	○飲食施設の充実 ○外湯の活用 ○木綿街道の修景 ○一式飾りの街角ギャラリーの充実
(3) 滞在促進メニューの 開発	a) 食の魅力づくり	○出雲そばブランド戦略 ○出雲そばマップ作成 ○神在料理の充実 ○安全な食の提供 ○食育の推進
	b) 朝と夜の魅力づくり	○朝の散策プランの充実 ○夜のまちあるきプランの充実 ○夕日めぐりプランの充実
	c) 体験プログラムと 健康促進メニューづくり	○歴史体験プログラムの充実 ○農村体験・農家体験プログラムの充実 ○漁村体験プログラムの充実 ○産業観光プログラムの充実 ○健康促進メニューの創出 ○教育旅行のプログラムの開発
	d) 宿泊魅力の向上	○宿泊施設満足度調査 ○宿泊予約の利便性向上 ○プロモーションの充実 ○温泉の活用 ○日帰り温泉施設との連携
(4) ストーリー性のある 周遊ルートの創出	a) 神話・縁結びルートの設定	○神話・縁結びに関する物語の紹介 ○ルート設定 ○PRの充実
	b) 歴史・文化ルートの設定	○歴史・文化に関する物語の紹介 ○ルート設定 ○PRの充実
	c) 海の風景（夕日のスポット） ルートの設定	○漁村体験プログラムの充実 ○ルート設定 ○景観整備 ○PRの充実
	d) 農山村風景ルートの設定	○農村体験・農家体験プログラムの充実 ○ルート設定 ○景観整備 ○PRの充実
	e) 多様なテーマによる 周遊魅力の創出	○テーマの掘り起こし ○ターゲット分析
(5) 交通ネットワークの充実	a) 公共交通による利便性の高い 周遊機能の整備	○交通案内ツールの充実 ○交通案内マップの作成 ○割引チケットの充実とPR ○二次交通の充実 ○周遊時における携帯情報端末への情報配信の充実
	b) 自動車旅行環境の整備	○交通サインの充実 ○自動車旅行向けの情報提供の検討 ○自動車旅行向けの商品開発の検討
(6) 広域観光の推進	a) 広域観光圏の整備	○機能・役割の明確化 ○既存広域組織の連携強化
	b) 外国人観光客の誘致への対応	○外国人観光客ニーズ分析 ○多言語による観光情報提供の推進

実施主体(○実施組織、●関連協力組織、▲サポート組織)					事業実施時期			関連施策
行政	観光関連団体	民間企業	住民/住民団体	中間支援団体	短期	中期	長期	
○	●	●	○	▲	←→			○出雲大社国宝本殿・重要文化財施設保存修理事業 ○神門通り広場整備事業 ○空き店舗利用促進事業 ○街なみ環境整備事業 ○(国)431号歩道整備 ○「神迎え通り」整備事業 ○「阿国通り」整備事業 ○(国)431「御宮通り」整備事業 ○(都)北荒木赤塚線2工区整備事業 ○「神門通り」整備事業 ○まちづくり景観整備事業(景観計画により整備方針を規定)
○	●	●	●	▲	←→			○出雲阿国座(仮称)建設事業
○	●	○	●	▲		←→		○泉源活用施設整備事業
●	●	○	○	▲	←→			○日御碕眺欄跡地へのホテル誘致 ○夕日の丘公園整備事業 ○いちじくの里整備事業 ○まちづくり景観整備事業(景観計画により整備方針を規定)
○	●	●	●	▲	←→			○出雲弥生の森博物館建設事業 ○田儀櫻井家たたら製鉄遺跡設備事業 ○今岡美術館 ○出雲民藝館 ○平田本陣記念館 ○木綿街道まちづくり事業
●	●	○	●	▲	←→			○神西湖屋形船運航
●	●	●	○	▲	←→			○わかあゆの里管理運営事業 ○立久恵峡環境整備事業 ○横見埋没林保存整備事業
●	●	○	○	▲	←→			○木綿街道まちづくり事業 ○空き店舗利用促進事業 ○まちづくり景観整備事業(景観計画により整備方針を規定) ○街なみ環境整備事業(今市地区) ○街なみ環境整備事業(平田地区) ○スサノオホール ○ビッグハート出雲 ○出雲市民会館 ○大社文化プレイスうらら館 ○出雲文化伝承館 ○佐田伝統芸能伝承館「文化練習館」 ○平田文化館
●	○	○	●	▲	←→			○出雲ブランド食の祭典 ○神在月出雲全国そばまつり ○食育のまちづくり事業
●	○	○	●	▲	←→			
●	○	○	●	▲	←→			○出雲市次世代エネルギーパーク整備事業 ○新エネルギー推進事業 ○古代出雲歴史探訪ミステリーウォーク
●	○	○	●	▲	←→			
○	●	●	●	▲	←→			○出雲大社国宝本殿・重要文化財施設保存修理事業 ○観光施設管理運営事業
○	●	●	●	▲	←→			○出雲大社国宝本殿・重要文化財施設保存修理事業 ○上塩冶築山古墳整備事業 ○中村1号墳整備活用事業 ○伝統芸能イベント ○田儀櫻井家たたら製鉄遺跡設備事業 ○出雲弥生の森整備活用事業 ○出雲弥生の森博物館建設事業 ○まちづくり景観整備事業(景観計画により整備方針を規定) ○観光施設管理運営事業
○	●	●	●	▲	←→			○観光施設管理運営事業
○	●	●	●	▲	←→			○横見埋没林保存整備事業 ○田儀櫻井家たたら製鉄遺跡整備事業 ○観光施設管理運営事業
○	●	●	●	▲	←→			○映画「BATADEN」の撮影
●	●	○	▲	▲	←→			○観光施設管理運営事業 ○出雲市生活バス運行事業 ○出雲市生活バス運行支援事業
○	●	○	▲	▲		←→		
○	○	●	▲	▲	←→			○神話の国縁結び観光協会 ○山陰文化観光圏 ○斐伊川サミット ○島根ふるさとフェア
○	○	●	▲	▲		←→		○ホームページの多言語化

施 策	プロジェクト	事 業 内 容
(7) 出雲ブランドの確立	a) 食のブランド開発	○出雲の食文化、特産品の紹介 ○地域食材の活用とPR ○食を楽しむ場づくり
	b) 神話ブランドの開発	○データベースの構築 ○神話伝承プログラムの充実 ○神話伝承ツールの充実 ○神話伝承学の開設 ○神話伝承ガイドの育成
	c) 温泉ブランドの開発	○既存温泉施設の活性化 ○日帰り温浴施設との連携
	d) 出雲全体での地域ブランド化の推進	○資源の掘り起こしと活用 ○イベント創出 ○特産品開発 ○旅行商品化
(8) 情報編集・発信の充実	a) 観光情報編集体制づくり	○観光情報データベースの充実 ○観光情報提供ツールの開発・充実 ○観光情報提供体制の整備
	b) イベントによる誘客促進	○既存イベントの充実・支援 ○新たなイベントの創出・支援 ○コンベンション・イベントの誘致
	c) 情報の発信、誘致・宣伝活動の充実	○ターゲット分析 ○観光宣伝の充実 ○観光プロモーション活動の充実 ○情報発信の場の開発
(9) 事業評価・検証・推進体制の確立	a) 観光基礎調査の実施	○市場調査の実施 ○地域資源・事業所調査の実施 ○事業効果測定の実施
	b) 観光推進のためのネットワークづくり	○観光情報ネットワークの強化
	c) センター機能を持った観光推進組織の創出	○観光推進マネジメント組織の設立
(10) ホスピタリティ [おもてなしの心]の 向上	a) 出雲学講座・学習、出雲まちづくり講座の実施	○出雲学講座の開設 ○出雲学習プログラムの創出 ○出雲まちづくり学講座の開設
	b) 出雲神話伝承・古代出雲ガイド、セールスパースン(セールス人材)の充実・育成	○出雲観光ガイドの育成・充実 ○出雲観光セールスパースン(セールス人材)の育成・充実 ○出雲観光プロデューサーの育成・充実
	c) 観光関連事業者の接遇力の向上	○接遇研修の実施・充実 ○勉強会、情報交換会の実施・充実

実施主体 (○実施組織、●関連協力組織、▲サポート組織)					事業実施時期			関連施策
行政	観光関連団体	民間企業	住民/住民団体	中間支援団体	短期	中期	長期	
●	○	○	●	▲	←→			○出雲ブランド食の祭典 ○神在月出雲全国そばまつり ○出雲アンテナショップ
●	○	●	○	▲	←→			
●	○	○	●	▲		←→		
●	●	○	●	○	←→			○「神在月」文化振興事業 ○神話の夢舞台出雲展
●	●	○	●	○	←→			○ポータルサイトの開設・編集 ○ホームページ多言語化
●	●	○	●	○	←→			○出雲全日本大学選抜駅伝競走 ○スイムラン多伎大会 ○出雲くにびきマラソン大会 ○一畑薬師マラソン大会 ○出雲ブランド食の祭典 ○神在月出雲全国そばまつり ○出雲神話まつり ○「神在月」文化振興事業 ○2,000人の吹奏楽 ○コンベンション開催事業
●	●	○	●	○	←→			
○	●	●	▲	▲	←→			
●	●	●	●	○	←→			
●	●	●	●	○	←→			
○	●	●	●	○	←→			
●	○	●	●	○	←→			○神話の国出雲観光大使
●	○	○	●	○	←→			

出雲市観光戦略会議 委員名簿

(50音順)

役 職	氏 名	役 職 名 等
会 長	小 口 孝 司	千葉大学文学部行動科学科准教授 千葉大学地域観光創造センター副センター長
副会長	沢 登 次 彦	(株)リクルート国内旅行カンパニーじゃらんリサーチセンター長
委 員	飯 島 真 人	漁業協同組合 JF しまね大社支所長
〃	伊 藤 恵 美	牧場のパン屋カウベル店長
〃	今 岡 一 朗	出雲市議会議長
〃	内 田 正 二	いずも農業協同組合代表理事専務
〃	大 島 治	出雲地域経済団体協議会副会長 平田商工会議所会頭
〃	加 田 厚	国土交通省松江国道事務所調査設計課長 ※第3回委員会より
〃	狩 野 和 志	(株)島根ワイナリー代表取締役社長
〃	坂 根 守	出雲市議会環境経済委員会委員長
〃	昌 子 修	一畑電車(株)代表取締役社長
〃	杉野本憲明	日本旅行業協会中四国支部島根地区会長 (株)JTB中国四国松江支店長
〃	洲 崎 浩	近畿日本ツーリスト(株)山陰支店支店長
〃	千家和比古	出雲大社権宮司
〃	高 木 繁	国土交通省松江国道事務所調査設計課長 ※第2回委員会まで
〃	高橋扶治夫	出雲市特産品協会会長 (有)二幸代表取締役社長
〃	田 邊 達 也	出雲ホテル連絡協議会会長
〃	谷 本 忠 士	出雲地区旅客自動車事業協同組合理事長
〃	玉 串 和 代	島根県商工労働部観光振興課長
〃	辻 本 弘 樹	(株)京阪神エルマガジン社「西の旅」編集長
〃	寺 田 昌 弘	出雲市議会観光・産業振興特別委員会委員長
〃	南 葉 健 一	JR西日本米子支社営業課長
〃	細 木 ふ み	元しまね観光大使
〃	見 継 敏 博	島根県土木部道路建設課長
〃	森 山 輝 也	(株)日本航空山陰支店長
〃	渡 部 稔	平成19年度全国都市再生モデル調査実施主体 大社門前町若者会代表
〃	渡 部 洋 二	神在料理わたなべ代表

出雲市観光基本計画

平成21年(2009)1月

発行:出雲市観光政策推進本部

〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地

TEL.0853-21-6619

FAX.0853-21-6585

URL <http://www.city.izumo.shimane.jp>